

2024 年 度

# 定 時 総 会 資 料

公益社団法人 日本経営工学会

# 公益社団法人 日本経営工学会

## 2024 年度定時総会次第

1. 開会の辞
2. 出席者数報告
3. 議長の選任
4. 議事録署名人の指名
5. 会長挨拶
6. 報告事項
  6. 1 2023 年度事業報告, 学会賞・論文賞・特別賞報告  
及び収支決算報告
  6. 2 監査報告
  6. 3 2024 年度事業計画, 収支予算報告
  6. 4 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件
7. 審議事項
  - 第一号議案 2023 年度事業報告及び収支決算報告の件
8. 閉会の辞

## 6. 報告事項

### 6. 1 2023 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告

#### 6. 1. 1 2023 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告

##### [I] 研究発表会, 学術講演会, 報告会等の開催 (定款第 4 条第 1 号) : 大会委員会

###### (1) 春季大会

日時: 2023 年 6 月 3 日 (土) ~4 (日)  
場所: 青山学院大学 (ハイフレックス開催)  
大会組織委員長: 中邨良樹 (青山学院大学)  
テーマ: 「メタバース活用の新規ビジネスと人材開発」

###### (2) 秋季大会

日時: 2022 年 10 月 28 日 (土) ~29 日 (日)  
場所: 愛知工業大学 (一部ハイフレックス開催)  
テーマ: 「サプライチェーンとグローバル環境戦略」  
大会組織委員長: 伊藤 雅 (愛知工業大学)

##### [II] 会誌その他の図書刊行 (定款第 4 条第 2 号)

###### (1) 日本経営工学会論文誌 (Journal of Japan Industrial management Association) : 日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol. 74, No. 1~No. 4, No. 2E, No. 4E を発行した。

発行年月	巻 号	発行部数
2023 年 04 月 15 日	74 1	1,300
2023 年 07 月 15 日	74 2, 2E	1,300
2023 年 10 月 15 日	74 3	1,300
2024 年 01 月 15 日	74 4, 4E	1,300

原著論文 (調査研究) 1 件 (うち英文号 0 件), 原著論文 (理論・技術) 9 件 (うち英文号 0 件), 原著論文 (事例研究) 4 件 (うち英文号 0 件), 研究速報 1 件を収録した。

###### 経営システム (Communications of JIMA) : 経営システム誌編集委員会

Vol. 33, No. 1・No. 2 を発行した。

発行年月	巻 号	発行部数
2023 年 07 月 15 日	33 1	1,800
2024 年 01 月 15 日	33 2	1,800

##### [III] 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款 4 条第 3 号)

###### 2023 年度 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告 : 表彰委員会

###### (1) 学会賞

大成 尚氏 (早稲田大学名誉教授, JIMA 名誉会員)

推薦理由:

大成 尚氏は, 長年, 経営工学領域の研究に尽力されると共に, 経営工学分野の教育に携わってきた。また, JIMA 名誉会員である大成氏は, これまでに学会の会長や理事を歴任されるなど, 学会の運営や維持・発展に貢献してきた。また, 研究業績において, 日本経営工学会論文誌に直近 20 年で 11 編の学術論文を掲載している。

以上のように, 日本経営工学会の維持・発展に対して顕著な功労があり, かつ研究活動でも功績が認められることから, 大成 尚氏を学会賞をもって顕彰する。

###### (2) 論文賞

小村皓大, 堀川三好, 岡本 東

センシングデータと骨格データのマルチモーダル学習による作業者の動作推定

日本経営工学会論文誌, Vol. 74, No. 2, pp. 31-39 (2023)  
推薦理由:

表彰委員会で議論した結果, レフリーの評価が同点で高かった 5 編の論文を論文賞候補として選び, 表彰委員会で再審査を行った。その結果, 本論文は他の論文の中で最も高い評価を集めた。

本論文は, ウェアラブル機器や動画から取得されるデータを用いて機械学習を活用することで, 工場における作業者の動作状態を把握する手法を提案した。本研究では, 簡易なウェアラブル機器から位置と動作に関するデータ, 動画解析から骨格データを取得し, 複合的に機械学習を行うことで動作推定を行った。ここではアンサンブル/マルチモーダル学習を適用することで, 骨格データの欠損が生じる場合に有効な動作推定手法について考察した。

以上より, 本論文は経営工学の発展に寄与することが期待される論文として, 論文賞の最終候補論文として選出した。

###### (3) 論文奨励賞

中野 匠, 志田敬介

着目領域と深層学習を用いた組立作業における作業測定の自動化に関する研究

日本経営工学会論文誌, Vol. 74, No. 2, pp. 90-97 (2023)  
推薦理由:

本論文に対してレフリーから奨励賞への高い推薦を得ていた。またレフリーの評価が高かった論文 5 編に対して表彰委員会で再審査を行った結果でも, 本論文は次点で高い評価を集めた。

本研究は, 組立加工工場における作業者の手作業をカメラで撮影し, その映像を画像解析することによって作業内容を推定し, 作業測定の自動化を試みた論文である。ここでは, 作業者の画像を解析するにあたり, 深層学習を用いて着目領域の設定と着目領域内の特徴から作業内容を推定するという二つの解析の手続きを取ることによって, 高い推定精度が得られる方法を提案した。

以上より, 表彰委員会で議論した結果, 本論文を論文奨励賞の最終候補論文として選出した。

###### (4) 特別賞 経営工学実践賞

渡邊 寛 (株式会社スマート工場研究所)

「スマート工場実現に向けた進め方の提案」

経営システム, Vol. 33, No. 1, pp. 8-15 (2023)

推薦理由:

本文の著者は, ERP (Enterprise Resource Planning) システムの導入・活用, スマート工場化のコンサルティング業務に従事しており, その経験を基に企業 (製造業) のスマート化に向けた問題点と, スマート化の進め方につ

いて紹介している。具体的な例を随所に挟みながら、スマート工場実現のための考え方や進め方を論述しており、スマート工場になると何が実現され、そのために何が必要になるのかを考える上で実務家にとって有益な文献であると考えられる。「経営システム」誌編集委員会において、本文献は、経営工学実践賞を受賞するのに相応しい文献として推薦された。これ以外に2件の推薦があった。

表彰委員会で推薦理由を踏まえて審議した結果、本文献を経営工学実践賞の最終候補論文として選出した。

(6) 特別賞 Best Presentation Award  
2023年春季大会

受賞者	所属	演題
布目 悠人	早稲田大学	ラベリングを用いた時間枠付き定期的配送計画問題に対する解法
額綱 潤大	東京理科大学	プロスペクト理論に基づく販売戦略の効果推定—物流への影響を踏まえた持続可能な販売戦略の提案に向けて
能登 培慈	上智大学	水素サプライチェーンネットワークにおける有機ハイドライドの活用に関する研究
山下 晃平	上智大学	物流倉庫における分散配置された商品の保管場所割当問題における解の特性分析

2023年秋季大会

受賞者	所属	演題
山本 留光	青山学院大学	「他のユーザーに抱くイメージ」がファッション EC モールの満足度に与える影響—利用開始時期の異なるユーザーの比較
福田 竜也	東京都市大学	不均衡データに対する MDO の精度向上に関する一考察
佐々木 啓斗	神奈川大学	献立最適化問題における近傍の確率的な選択に基づくタブー探索法
柳 智也	筑波大学	データコラボレーション解析を用いた推薦システム

(7) 特別賞 優秀学生賞

氏名	大学名	学部学科名
飯田 穂乃	名古屋工業大学	工学部・社会工学科 経営システム分野
安富 陸	青山学院大学	理工学部 経営システム工学科
石川 愛菜	東海大学	情報通信学部 経営システム工学科
中川 あかり	近畿大学	工学部 情報学科
吉川 航平	秋田県立大学	システム科学技術学部 経営システム工学学科

木村 真心	東京理科大学	創域理工学部 経営システム工学科
元山 貴雄	法政大学	理工学部 経営システム工学科
藤原 龍聖	岩手県立大学	ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科
西村 和陽	長崎総合科学大学	総合情報学部 総合情報学科
加藤 開理	金沢工業大学	情報フロンティア学部
相川 大知	日本工業大学	先進工学部 情報メディア工学科
大串 旭	成蹊大学	理工学部 システムデザイン学部
猫本 遼太	千葉工業大学	社会システム学部 経営情報学科
倉本 英希	福岡工業大学	情報工学部 システムマネジメント学科
中山 友琉	筑波大学	理工学群 社会工学類
北岡 宗理	千葉工業大学	社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
星加 航太	広島大学	工学部第二類
橋本 直樹	大阪府立大学	工学域電気電子系学類 電気電子システム工学課程
松尾 朋響	早稲田大学	創造理工学部 経営システム工学科
沈 連童	東京工業大学	工学院 経営工学系
蒲原 直人	慶應義塾大学	理工学部 管理工学科
岡部 開翔	神奈川大学	工学部 経営工学科
江連 夏美	電気通信大学	情報理工学域I類 メディア情報学プログラム

以上23名

【IV】調査、研究、見学及び視察（定款第4条第4号）

支部及び研究部会を通して以下の通り活動した。

(1) 支部活動計画：支部委員会

1) 東北・北海道支部

—北海道、青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島

支部長：山口 俊憲（山形県立産業技術短期大学校）

副支部長：嶋崎 真仁

（秋田県立大学）

事務局：〒990-2473

山形県山形市松栄2-2-1

山形県立産業技術短期大学校

山口 俊憲

E-mail: yamaguch@yamagata-cit.ac.jp

① 支部運営委員会（7回）

日時：2023年10月9日（月）

2023年10月21日（土）

2023年11月12日（日）

2023年12月27日(水)  
2024年1月29日(月)  
2024年1月30日(火)  
2024年2月13日(火)

会 場：電子メール会議

② 研究発表会 (1回)

日 時：2024年2月23日(金)

会 場：オンライン形式

発表件数：4件

③ その他

特になし

④ 支部所属会員数 (2024年3月末)

正会員数 28名, 名誉会員数 0名,

学生会員数 8名, 賛助会員数 0社

## 2) 関東支部

一茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 山梨  
支 部 長：大久保寛基 (東京都市大学デザイン・デー  
タ科学部)

事 務 局：〒227-0067

東京都八王子市東中野 742-1

中央大学 商学部 #21267

事務局担当者名 齋藤 正武

E-mail: msaito@tamacc.chuo-u.ac.jp

<https://sites.google.com/view/jima-kanto/>

① 支部運営委員会 (3回)

(ア) 第1回支部運営委員会

日 時：2023年6月24日(土)

会場：中央大学後楽園キャンパス (Zoom 併用)

出席者：11名

(イ) 第2回支部運営委員会

日 時：2023年12月23日(土)

会場：東京都市大学渋谷キャンパス (Zoom 併用)

出席者：10名

(ウ) 第3回支部運営委員会

日 時：2024年2月24日(土)

会場：慶応義塾大学矢上キャンパス (Zoom 併用)

出席者：15名

② 講演会 (1回)

日 時：2023年6月24日(土)

会場：中央大学後楽園キャンパス

出席者：43名

講演：樋口知之先生 (中央大学理工学部ビジネス  
データサイエンス学科教授)

講演題目：「ChatGPT: 連想ゲームつぶやきマシン  
だけどもすごい性能と私たちはどうつきあ  
うか？」

後援：中央大学 AI データサイエンスセンター

③ 事業所見学会 (1回)

日 時：2024年1月30日(火)

場所：(株)東芝 府中事業所

参加者：24名

受入担当者：杉山尚美様 (東芝生産技術センター)

見学内容：社会インフラシステム製造課と水素エ  
ネルギー研究開発センター

④ 学生論文発表会

日 時：2024年2月24日(土)

会場：慶応義塾大学矢上キャンパス

発表件数：47件

基調講演：戸ヶ崎辰夫様①、志澤達司様② ※ (日  
本技術士会 経営工学部会との連携企画)

講演題目：「①製品のサービス化について～経営  
工学ビジョン2050補遺版から～」 「②コンプ  
ライアンスと品質保証」

④ 支部所属会員数 (2024年3月末)

正会員数 514名, 名誉会員数 16名,

学生会員数 108名, 賛助会員数 11社

## 3) 中部支部

一愛知, 岐阜, 三重, 静岡

支 部 長：荒川 雅裕 (名古屋工業大学)

事 務 局：〒466-8555

名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学工学部都市社会工学科内

事務局担当者名 荒川 雅裕

TEL: 052-735-7408

E-mail: arakawa.masahiro@nitech.ac.jp

<http://www.jimnet.jp/office/branch/chubu/>

① 研究発表会

日 時：2024年2月29日(木)

会 場：名古屋工業大学 2号館 0222室 (幹事校：名古  
屋工業大学)

発表件数：13件

② 支部所属会員数 (2024年3月末)

正会員数 68名, 名誉会員数 4名,

学生会員数 17名, 賛助会員数 1社

## 4) 北陸支部

一石川, 富山, 福井, 新潟, 長野

支 部 長：中野 真 (金沢工業大学)

副支部長：石原 正彦 (金沢工業大学)

事 務 局：〒921-8501

野々市市扇が丘 7-1

金沢工業大学基礎教育部修学基礎教育課程

事務局担当者名 中野 真

TEL: 076-248-9758

FAX: 076-294-6701

E-mail: mnakano@neptune.kanazawa-  
it.ac.jp

<http://jima-hokuriku.labos.ac/>

① 学生論文発表会 (日本品質管理学会中部支部共催)

日 時：2024年2月24日(土)

会 場：オンライン形式

発表件数：4件

参加者：11名

② 支部所属会員数 (2024年3月末)

正会員数 25名, 名誉会員数 1名,

学生会員数 3名, 賛助会員数 1社

## 5) 関西支部

—大阪, 京都, 兵庫, 和歌山, 奈良, 滋賀

支 部 長: 古 殿 幸 雄 (近畿大学)

事 務 局: 〒577-8502

大阪府東大阪市小若江 3-4-1

近畿大学理工学部機械工学科

生産マネジメント工学研究室内

事務局担当者名 竹本 康彦

TEL: 06-4307-4330

E-mail: jima.kansai@gmail.com

https://sites.google.com/site/jimakansai/

### ① 支部総会

日 時: 2023年6月24日(土)

会 場: 龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者: 16名

議 題:

(ア) 2022年度支部事業報告

(イ) 2022年度支部決算報告

(ウ) 内規改定

(エ) 役員選任

(オ) 2023年度支部事業計画案

(カ) 2023年度支部予算案

(キ) その他

特別講演会

題 名: 組織の能力向上の現場—管理者としての実践と理論面からの考察—

講 師: 北川 昭浩 氏 (北川技術士オフィス)

参加者: 25名

### ② 委員会 (5回)

(ア) 第1回運営委員会

日 時: 2023年6月24日(土)

方 法: 龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者: 16名

(イ) 第2回運営委員会

日 時: 2023年9月1日(月)

会 場: オンライン会議室

出席者: 15名

(ウ) 第3回運営委員会

日 時: 2023年11月25日(土)

会 場: 龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者: 13名

(エ) 第4回運営委員会

日 時: 2024年1月5日(水)~12日(金)

会 場: メール審議

出席者: 運営委員全員

(オ) 第5回運営委員会

日 時: 2024年2月26日(月)

会 場: 龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者: 11名

### ③ セミナー (2回)

(ア) 第1回経営工学セミナー (日本経営システム学

会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会・日本情報経営学会関西支部共催)

日 時: 2023年11月25日(土)

会 場: 龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

題 名: 対話型進化計算が拓く感性検索システムの未来

講 師: 徳丸 正孝 氏 (関西大学)

題 名: 仮想実社会データ (=合成人口データ+基本行動データ) によるリアルスケール社会シミュレーションの実現

講 師: 村田 忠彦 氏 (大阪大学大学院)

出席者: 34名

(イ) 第2回経営工学セミナー (日本経営システム学会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会・日本情報経営学会関西支部共催)

日 時: 2024年2月26日(月)

会 場: 龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

題 名: 人的資本経営の現状と課題—人事管理と情報経営の視点による検討—

講 師: 米田 晃 氏 (神戸大学大学院)

題 名: 経営学・マーケティングにおけるテキストデータの活用

講 師: 勝又 壮太郎 氏 (大阪大学大学院)

出席者: 33名

### ④ 学生論文発表会 (1回)

(日本経営システム学会関西支部共催, 日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会協賛)

日 時: 2024年3月2日(土)

会 場: 大阪工業大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

発表件数: 16件

優秀学生発表賞: 4件

・左近 サツキ 氏 (大阪工業大学)

・橋本 直樹 氏 (大阪府立大学)

・福本 圭 氏 (近畿大学)

・田部 直人 氏 (大阪公立大学大学院)

参加者数: 46名

### ⑤ 支部所属会員数 (2024年3月末)

正会員数 117名, 名誉会員数 5名,

学生会員数 8名, 賛助会員数 2社

## 6) 中国四国支部

—鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 高知, 徳島

支 部 長: 森川 克己 (広島大学)

副支部長: 石原 良晃 (大島商船高等専門学校)

片岡 隆之 (近畿大学)

神垣 太持 (広島工業大学)

徐 祝旗 (愛媛大学)

事 務 局: 〒739-8527

広島県東広島市鏡山 1-4-1

広島大学大学院先進理工系科学研究科内

事務局担当者名 森川 克己

TEL : 082-424-7704  
E-mail : cs.jima@gmail.com  
<https://sites.google.com/site/csjima/>

- ① 支部総会  
日 時 : 2023 年 4 月 28 日 (金)  
会 場 : Microsoft Teams 利用のオンライン開催  
議 題  
(ア) 2022 年度事業報告, 決算報告  
(イ) 2023・2024 年度支部役員承認  
(ウ) 2023 年度事業計画・予算
- ② 支部役員会 (3 回)  
(ア) 第 1 回  
日 時 : 2023 年 4 月 28 日 (金)  
会 場 : オンライン (Microsoft Teams)  
議 題 : 支部総会審議事項  
(イ) 第 2 回  
日 時 : 2023 年 11 月 6 日 (月)  
会 場 : オンライン (Microsoft Teams)  
議 題 : 学生論文発表会の開催日と形態  
今年度の事業  
次年度の事業計画・予算  
(ウ) 第 3 回  
日 時 : 2024 年 2 月 21 日 (水)  
会 場 : 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま  
議 題 : 支部長賞について  
今年度の支部事業報告・決算報告  
次年度の支部事業計画・予算
- ③ 講演会 (3 回)  
(ア) 第 1 回  
日 時 : 2023 年 4 月 28 日 (金)  
会 場 : オンライン (Zoom)  
テーマ : 先進的森林セラピーの事例に学ぶソーシャル・イノベーションの実践知と地域的知識創造  
講 師 : 西原文乃氏 (立教大学), 信田勝美氏 (NPO 品川クリエイティブラボ), 桂信太郎氏 (高知工科大学)  
コメンテーター : 板倉宏昭氏 (東京都立産業技術大学院)  
備 考 : 日本生産管理学会 中国・四国支部との共催  
出席者 : 19 名  
(イ) 第 2 回  
日 時 : 2023 年 10 月 3 日 (火)  
会 場 : オンライン (Zoom)  
題 目 : 中国新エネルギー自動車産業市場発展に関する一考察  
講 師 : フグジル氏 (中国寧波工程院)  
備 考 : 日本生産管理学会 中国・四国支部との共催  
出席者 : 17 名  
(ウ) 第 3 回  
日 時 : 2024 年 2 月 21 日 (水)  
会 場 : 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま

題 目 : 1 次元の連続型 k-システムの信頼性および保全性について  
講 師 : 周蓄氏 (山口大学 大学院創成科学研究科)

出席者 : 37 名

- ④ 工場見学会 (1 回)  
日 時 : 2023 年 9 月 5 日 (火)  
会 場 : コベルコ建機株式会社 五日市工場  
参加者数 : 11 名
- ⑤ 学生論文発表会 (1 回)  
日 時 : 2024 年 2 月 21 日 (水)  
会 場 : 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま  
発表件数 : 16 件  
参加者数 : 37 名
- ⑥ 支部表彰  
研究奨励賞 : 3 件  
支部長賞 : 5 件  
優秀研究発表賞 : 6 件  
研究発表賞 : 10 件
- ⑦ 支部所属会員数 (2024 年 3 月末)  
正会員数 54 名, 名誉会員数 2 名,  
学生会員数 7 名, 賛助会員数 1 社

## 7) 九州支部

一福岡, 佐賀, 熊本, 大分, 長崎, 宮崎, 鹿児島, 沖縄  
支 部 長 : 徂徠 三十六 (日本文理大学)  
副支部長 : 王 曉華 (西南学院大学)  
田嶋 拓也 (福岡工業大学)  
事 務 局 : 〒811-0295  
福岡市東区和白東 3-30-1  
福岡工業大学情報工学部  
システムマネジメント学科内  
事務局担当者名 小林 稔 (Ms. 道下)  
TEL : 092-606-5893  
FAX : 092-606-0756  
E-mail : jima.kyushu@gmail.com  
<http://www.fit.ac.jp/~t-tajima/JIMA/>

- ① 支部総会  
日 時 : 2023 年 6 月 17 日 (土) 13:50-14:40  
会 場 : 福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研室 1  
参加者 : 23 名 (委任状 16 名を含む)  
(ア) 議題  
A) 会員在籍状況・入退会状況報告  
B) 2022 年度事業報告  
C) 2022 年度会計 (決算) 報告  
D) 2023 年度事業計画, 役員  
E) 2023 年度予算  
F) 表彰対象の決定  
G) その他 2023 年度第 2 回研究会についてなど  
(イ) 意見交換会
- ② 運営委員会 (支部幹事会) (3 回)  
(ア) 第 1 回  
日 時 : 2023 年 6 月 17 日 (土) 12:40-13:40  
会 場 : 福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研室 1  
参加者 : 19 名 (委任状 12 名を含む)

(イ) 第2回  
日時：2023年9月16日(土) 13:05-14:10  
会場：J:COM ホルトホール大分 407 会議室  
参加者：17名(委任状11名を含む)

(ウ) 第3回  
日時：2023年12月9日(土) 12:50-13:40  
会場：福岡大学文系センター棟4階第4会議室  
参加者：16名(委任状4名を含む)

③ 定例セミナー(1回)

(協賛 日本生産管理学会九州支部主催)

日時：2023年9月16日(土)  
会場：J:COM ホルトホール大分 407 会議室

第1発表 14:20-15:20

題名：高等専門学校における日本事情教材の開発  
～宇部・津山高専学生との取り組み～

講師：狭間 雅義(宇部工業高等専門学校)

第2発表 15:35-16:35

題名：データサイエンスへの誘い ～ビッグデータ  
とAIの活用～

講師：衛藤 俊寿(日本文理大学)

参加者：6名

④ 研究会(2回)

(ア) 第1回

日時：2023年6月17日(土)  
会場：福岡工業大学B棟8階 研究室・卒研  
室1

第1発表：15:00-16:00

題名：国内における商品企画研究の動向  
—計量テキスト分析によるアプローチ—

講師：小久保 雄介(日本文理大学)

第2発表：16:10-17:10

題名：異字同訓漢字の使い分けに関する研  
究 —ポピュラーソングの調査から—

講師：徂徠 三十六(日本文理大学)

参加者：7名

(イ) 第2回

日時：2023年12月9日(土)  
会場：福岡大学文系センター棟4階第4会議  
室

第1発表 13:50-14:50

題名：物流の2024年問題とその影響につ  
いて

講師：大塚 淳子(コンサルティング Office  
ジェイティス)

第2発表 15:00-16:00

題名：q Theory with Replacement  
Investment

講師：万 軍民(福岡大学)

第3発表 16:10-17:10

題名：製品開発と製品開発管理 ～生産管理  
と製品開発管理の違いを観点に～

講師：泉 英明(総合政策研究所)

参加者：16名

⑤ 第50回学生論文発表会

日時：2024年2月17日(土) 11:00-17:40  
会場：福岡工業大学B棟6階B-61 講義室

発表件数：16件

参加者：28名(内、学生17名、教員11名)

⑥ 見学会

日時：2023年10月31日(火) 14:00-16:00  
会場：株式会社ブリヂストン北九州工場

参加者：10名

⑦ 学生会講演会

日時：2023年11月17日(金) 8:50-10:30  
会場：西南学院大学西南クロスプラザ2階

レセプションホール

題名：Inventory Management Simulation

講師：傅 靖(福岡工業大学)

受講生：約100名

⑧ 支部所属会員数(2024年3月末)

正会員数27名、名誉会員数0名、

学生会員数4名、賛助会員数0社

(2) 研究部門・研究プロジェクト活動：研究委員会

1) 生産・物流部門

(部門長：翁 嘉華)

① 概要

本部門では、サプライチェーンにおける生産・物流  
に関する課題に対して、調査研究、理論研究および事  
例研究を通して多角的に取り組み、解決を目指すこと  
を目的とする。

② 研究部門活動報告

今年度は春季大会にて企業事例セッションを実施  
した。また、産学交流ワークショップを開催した。さ  
らに、国際・渉外委員会と連携して国際ワークショッ  
プを開催した。運営委員会の開催は昨年度に引き続  
きメールベースで実施した。

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2023年春季大会・企業事例セッ  
ション「企業における経営工学の実践事例の問  
題提起」

● 千野 道人：企業における「ものづくり人材」育成  
の現況と課題 - 経済産業省所管「ものづくり白書」  
より -

● 千野 道人：経営工学を基盤とした実践教育の企業  
事例紹介 - 教育体系の考え方と実践事例企業の紹  
介 -

● 福岡 洋希：経営工学教育の工科高校での展開事例  
- 大阪府立 布施工科高等学校における PBL 教育  
を基盤とした生産管理教育の紹介 -

(イ) 産学交流ワークショップ(2023年3月3日名古屋  
工業大学にて開催)

● 特別講演：

太田 康徳(㈱アイシン)：設計者に向けた実践的VE  
手法の開発、浸透拡大の取り組みについて

概要：アイシンではVE基礎教育を導入し、全部署に  
浸透することを目的に教育活動を推進・展開している。



さらに、2017年には新たに実践教育を立ち上げ、設計実務者全員を対象に機能本位志向での図面改善力強化を推進し、現在はグループ会社へも教育展開中。本講演は、当該活動を活性化させてきた過程を紹介し、産業界における経営工学の有効性を実体験などをもとに紹介し、今後の期待について見解を述べた。

● 研究発表

- i. 伊呂 原隆, 野口 瑠音, 田中 貴, 杉山 尚美: 物流倉庫におけるオーダーピッキング作業の効率化
- ii. 石垣 綾, 瀬野 潤大, 伊集院 大将: 生産・物流分野における産学連携教育・研究プログラムの実施
- iii. 広谷 大助, 中川 卓也: 環境負荷を考慮した複数のグリーンレベルを伴うグリーンサプライチェーンに対する利益最大化モデル
- iv. 長沢 敬祐, 森川 克己, 高橋 勝彦: CSR と SDGs を考慮した循環型サプライチェーン

(ウ) 国際ワークショップ (3月6日~3月7日)

- (株)日立製作所 (研究開発グループコネクティングオートメーションイノベーションセンタ) への見学を開催した。
- 生産・物流分野の研究発表計 22 件を実施した (台湾 11 件, 韓国 5 件, 日本 6 件)。

## 2) 事業・市場部門

(部門長: 中邨 良樹)

### ① 概要

本部門では、「SDGs 目標 12 生産消費責任」の社会課題解決に向けて、CE 政策・国際標準規格の動向を反映した「CE 指向の多世代・循環型バリューチェーンマネジメント (VCM) 」の「方法論」と「システム技法」の研究開発と実証、および国内外における産業別の CE 先進企業事例研究に取り組んでいる。

具体的には、「CE の方法論とシステム技法および産業別の CE 先進企業事例研究の研究概要」「CE 製品・サービス実現に向けた多世代バリューチェーンマネジメント・モデルの構築」「CE に対する IoT/DX 製品・サービスの設計法とサービス・ライフサイクルモデルの構築」などである。

### ② 研究部門活動報告

春季大会および秋季大会において、研究部門 OS を企画した。また、第 14 回横幹連合コンファレンス・研究部門 OS にて報告を行った。併せて、未来戦略デザイン推進会議を 10 回開催した。

さらに、経営システム誌 7 月号において「SDGs 生産消費責任を果たす循環型経済の新理論とシステム技法の開発・実証」を企画した。また、Asian Journal of Management Science and Applications にて「Circular Economy Strategy and Technology for Sustainable Business Industries and Inclusive Cities」を企画した。

### ③ 研究成果 (研究発表等)

- (ア) 日本経営工学会 2023 年春季大会, 2023 年 6 月 3 日対面, セッション名: 未来戦略デザイン「SDGs & CE (circular economy) の方法論とシステム技法」

- 新目 真紀, 玉木 欽也「SDGs&CE の方法論とシステム技法ーデジタルマーケッター育成プログラムの効果検証ー」
  - 玉木 欽也, 薄上 二郎, 高松 朋史, 中邨 良樹, 荒川 雅裕, 朴 英元, 木内 正光「循環型経済 (CE) の政策・標準化/産業別先進企業事例に関する海外と日本の動向調査と考察」
  - 荒川 雅裕, 朴 英元, 阿部 武志, 田崎 一広, 玉木 欽也「Circular Economy の運用を考慮するサービス・製品設計プロセスの開発」
  - 高松 朋史, 鄭 周華, 戴 智豪, 王 雁, 玉木 欣也, 「多世代・循環型バリューチェーンマネジメントの方法論」
  - 木内 正光, 中邨 良樹, 玉木 欽也「循環型経済における製品サービス開発のための品質機能展開構想図に関する研究」
- (イ) 令和 5 年度 第二回オンライン研究セミナーオンライン研究会: 「SDGs & CE (circular economy) の方法論とシステム技法」2023 年 9 月 15 日 (金) 14 時~16 時 15 分
- 玉木 欽也「CE の方法論とシステム技法および産業別の CE 先進企業事例研究の研究概要」
  - 荒川 雅裕「CE に対する IoT/DX 製品・サービスの設計法とサービス・ライフサイクルモデルの構築」
  - 新目 真紀「CE 製品・サービス実現に向けた行動意思決定モデルの活用」
- (ウ) 23rd Asia Pacific Industrial Engineering & Management System Conference AND The 26th Asia Pacific Division Meeting of The International Foundation for Production Research - APIEMS2023 発表 2023 年 10 月 23 日
- Maki Arame, Ayako Yajima, Maho Suzuki, Kinya Tamaki. “Verification of the effects of a digital marketer development program for promoting the circular economy.”
- (エ) 日本経営工学会 2023 年秋季大会, 2023 年 10 月 28 日オンライン
- セッション名: 「サーキュラーエコノミー (CE) の動向/理論/システム技法」
- 玉木 欽也, 薄上 二郎, 高松 朋史, 中邨 良樹, 荒川 雅裕, 朴 英元, 木内 正光「循環型経済 (CE) の実証研究および CE 政策・標準化/産業別企業事例の国際・国内動向調査」
  - 新目 真紀, 矢島 彩子, 玉木 欽也「サーキュラーエコノミー推進に向けたマーケッター育成プログラムの効果検証」
  - 荒川 雅裕, 朴 英元, 阿部 武志, 田崎 一広, 玉木 欣也「サーキュラーエコノミーに対するサービス・製品設計サービス・製品設計プロセスとサービスライフサイクルマネジメントの検討」
  - 後藤 智, 友松 恵子, 永田 義昭, 織田 孝司, 中邨 良樹, 玉木 欽也「バックキャスト思考を取り入れたデジタルファクトリー戦略構想ワークショップの開発製造企業向けデジタル化推進人材育成の取り組み」
  - 永田 義昭, 後藤 智, 友松 恵子, 織田 孝司, 中邨

良樹, 玉木 欽也「バックキャスト思考のビジネスへの応用—ムーンショット目標がもたらす効果に関する一考察」

- 友松 恵子, 後藤 智, 永田 義昭, 織田 孝司, 中邨 良樹, 玉木 欽也「効果的なバックキャスト思考をおこなうための自分の強みの活かし方—個人の特性を未来開発に活かす方法の1提案—」

(オ) 2023 IEEE International Conference on Teaching, Assessment and Learning for Engineering (TALE) TALE2023 発表 2023 年 12 月 1 日

- Maki Arame, Kinya Tamaki, “Effectiveness of Resilience Support in an Online PBL Class for Business Planning based on Circular Economy (CE).”

(カ) 第 14 回横幹連合コンファレンス企画セッション, 2023 年 12 月 16 日ハイブリッド

セッション名: SDGs&CE

(circulareconomy)の方法論とシステム技法

- 中邨 良樹, 大宮 望, 高津 洋貴, 玉木 欽也「SDGs&CE(CircularEconomy)の方法論の活用事例」
- 亀田 弘之「Metaverse 技術・DockerContainer 技術およびマイクロサービス手法の活用事例とそのSGDs&CE 社会へ向けての考察」
- 新目 真紀, 矢島 彩子, 佐久田 博司, 玉木 欽也「CEをプロデュースできる人材育成のプラットフォームの現状と課題—プロデュース力を促進するアダクションの活用方法の検討—」
- 佐久田 博司, 新目 真紀, 林 明夫, 野口 新司, 高宮幸代, 玉木欽也「CEのためのハイブリッド型教育コンテンツによる次世代の教育環境—デジタルBOOKの基本仕様と実装例—」
- 大宮 望, 中邨 良樹「映画コンテンツにおける持続可能性を目指す分析手法の提案」
- 朴 英元「CE 実現のための EV バッテリーの技術トレンドとリサイクル戦略」
- 林 明夫, 小野 好之, 玉木 欽也, 佐久田 博司「メタバースをプラットフォームとする STEAM 教育の基礎構築—バーチャルミュージアム開発における実施例—」

(キ) The 7th Asian Conference of Management Science and Applications, 2023 年 12 月 16 日, セッション名: Theories and Techniques for Circular Economy

- Yoshiki Nakamura, Nozomi Oomiya, Hiroki Kozu and Kinya Tamaki. “A Case Study of Sustainable Development Goals and Circular Economy Methodology.”
- Hiroyuki Kameda. “A preliminary consideration of software development process in a circular and sustainable society.”
- Masahiro Arakawa, Won Young Park, Takeshi Abe, Kazuhiro Tazaki and Kinya Tamaki. “Development of a Method for Service Creation and Product Design to Realize a Circular Economy.”

- Masahiro Arakawa, Won Young Park, Takeshi Abe, Kazuhiro Tazaki and Kinya Tamaki. “Development of Service and Product Design Processes Considering Product Life Cycle Management for a Circular Economy.”

### 3) サービス部門

(部門長: 水山 元)

#### ① 概要

サービス提供場は, 抽象化すると, 異なる私的情報を所持した複数の主体が提供側と需要側に分かれて相互作用する場であるともいえる. 本部門では, このサービス提供場を対象にした数理的, 工学的研究を対象とする. その中でも特に, 複数人に分散している知識を集約する「集合知メカニズム」の考え方を, サービス提供場を捉えるための「サービスマカニズム」に拡張し, その理論と応用について議論する.

#### ② 研究プロジェクト活動報告

オンライン研究会を 8 回実施し, 「サービスマカニズムデザインへの応用」などについて議論した.

(第 1 回) 2023 年 7 月 26 日, (第 2 回) 8 月 7 日, (第 3 回) 8 月 22 日, (第 4 回) 10 月 2 日, (第 5 回) 10 月 31 日, (第 6 回) 11 月 7 日, (第 7 回) 2024 年 1 月 25 日, (第 8 回) 2 月 29 日

#### ③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2023 年春季大会・研究部門 OS 「サービスマカニズムデザイン」 (2023 年 6 月 4 日・青山学院大学大学青山キャンパス)

- 小野 滋: 消費者の内的参照価格・支払意思額の推定 対人的マルコフ連鎖シミュレーションによる集合知形成の試み

- 西野 成昭, 石川 竜一郎, 水山 元: サービスにおける実践的メカニズムデザインの提案 アナリシスからシンセシスへ

- 杉之内 将大, 水山 元: サービスメカニズムデザインとしてのスケジューリングオークション

(イ) 第 14 回横幹連合コンファレンス・OS 「創発的シンセシスとサービスマカニズムデザイン」

(2023 年 12 月 17 日・東京大学本郷キャンパス)

- 西野 成昭: メカニズムシンセシスの提案
- 石川 竜一郎: サービスと集合知のメカニズムデザイン

- 水山 元: 協働型生産システムとそのメカニズム

- 杉之内 将大, 水山 元: 島 GA を援用したメタヒューリスティックスケジューリングオークション—島の構造が帰結に与える影響—

- 唐澤 英安: プロダクツ&ライフスタイルを創発するリビングラボの支援ツール—鎌倉リビングラボで連環データ分析によるスモール&ディープデータを使ったケース—

- 竹中 毅: サービスシステムの価値論

(ウ) 日本経営工学会令和 5 年度第三回オンライン研究セミナー (2024 年 1 月 12 日・オンライン開催)

- 水山 元: 協働型生産システムとそのメカニズム

- 石川 竜一郎：経験評価としての集合知メカニズムのデザイン
- 西野 成昭：Vickrey-Clarke-Gloves (VCG) メカニズムを応用した予約システムに関する研究

#### 4) 経営情報部門

(部門長：高橋 啓)

##### ① 概要

経営情報分野における研究活動を継続して行う。特に、データ解析コンペティションの中間発表会、成果報告会を開催するとともに、全国大会におけるオーガナイズドセッションを企画する。

##### ② 研究部門活動報告

前年度に引き続き、経営科学系研究部会連合協議会によるデータ解析コンペティションの一部会として参加し、部門主催の形で「データ解析コンペティション JIMA 予選会」を開催した。今年度は、は楽天株式会社様より購買履歴データが提供された。合計 11 チームが参加して、データ解析の技術と切り口を競った。聴講者も含め、JIMA 内外からの多くの参加があり、中間発表会における情報共有、最終成果発表会での審査を行い、最優秀賞、優秀賞各 1 チーム、敢闘賞を 1 チーム、技能賞を 1 チームに授与した。上位 2 チームを、3 月 15 日に行われた本選に推薦した。本選では、推薦したチームのうち 1 チームが日本ソーシャルデータサイエンス学会研究奨励賞を獲得した。

##### ③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2023 年秋季大会・研究部門 OS  
「デ経営工学と因果推論」 (2023 年 10 月 29 日・対面)

##### ● 登壇者：

高橋 啓, 山下 遥, 後藤 正幸, 小林 学, 田畑 智章, 三川 健太, 齊藤 史哲, 関 庸一, 黒木 学, 竹本 康彦, 吉田 悠夏

(イ) データ解析コンペティション JIMA 予選会中間発表会 (2023 年 11 月 5 日・オンライン)

参加チーム：12 チーム, 参加者：51 名

(ウ) データ解析コンペティション JIMA 予選会最終発表会 (2024 年 2 月 23 日・対面)

参加チーム：12 チーム, 参加者：52 名

#### 5) 経営数理部門

(部門長：孫 晶)

##### ① 概要

近年の複雑化した社会において、対象に応じてより適切なコスト管理が必要とされる。またマーケティングについてもベイジアンネットワーク等の新しい手法による実証研究がなされつつある。このようなより複雑化するシステムに対する管理手法とその効果、考察を深める。

##### ② 研究部門活動報告

経営数理分野における研究活動を継続して行った。特に、日本経営工学会 2023 年春季と秋季大会における OS を行うとともに、ACMSA2023 国際会議にて Special Session を企画した。

##### ③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2023 年春季大会 研究部門 OS にて研究報告 (オンライン 司会：孫 晶)

● 米田 雄貴, 楠川 恵津子：政府の補助金のもとで使用済み電気自動車バッテリーの品質と再利用を考慮したクローズド・ループ・サプライチェーンにおける最適運用

● Zhao Mingjuan, 孫 晶, Tao Zixian, 中出 康一：ヒューマン・ファクターを考慮した最適代替モデルの算出方法

(イ) 日本経営工学会 2023 年秋季大会 研究部門 OS にて研究報告 (対面 司会：皆川 健多郎)

● Zhao Mingjuan, 孫 晶, 中出 康一：ヒューマンファクターを考慮した多目的 FJSP 問題の数理モデルの構築

● 楠川 恵津子, 吉野 将哉：政府介入のもとでのバイオ燃料サプライチェーンにおける政府と関連業者の行動戦略に対する進化的安定性の分析

(ウ) ACMSA2023 国際会議 部門 Special Session にて研究報告 (対面 司会：中出 康一)

● Mingjuan Zhao, Jing Sun and Koichi Nakade : A Mathematical Model of the Multi-objective Flexible Job-shop Scheduling Considering Human Factors

● Yusuke Honda and Koichi Nakade : A Heuristic Algorithm for the Vehicle Routing Problem with Stochastic Travel and Service Times

● Wataru Sakurai and Koichi Nakade : An Optimization Model of a Retailer and a Manufacturer in a Green Supply Chain

● Risako Yamauchi and Jing Sun : An Integrated Model for Power Demand Forecasting and Power Procurement Using Economic Indicators

#### 6) 人間・組織部門

(部門長：村田 康一)

##### ① 概要

人間・組織分野の会員交流促進するための運営体制の見直しを行う。他部門や研究プロジェクトとの連携を検討しつつ、新たな運用体制で部門活動を継続した。

##### ② 研究部門活動報告

以下の日時のミーティングにおいて、経営工学における人材育成を話題に取り上げた。第一回オンライン研究セミナーで発表を行った。また、IE 分野の専門家を招き、取り組み事例について紹介・ディスカッションを 3 回実施した。

(第 1 回) 2023 年 5 月 18 日, (第 2 回) 2023 年 8 月 21 日, (第 3 回) 2023 年 9 月 19 日, (第 4 回) 2023 年 10 月 23 日, (第 5 回) 2023 年 11 月 21 日, (第 6 回) 2023 年 12 月 19 日, (第 6 回) 2024 年 2 月 15 日, いずれもオンライン

##### ③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 日本経営工学会令和 5 年度第一回オンライン研究セミナー (研究会テーマ：大学教育における PBL による実践的人財育成) (2023 年 7 月 14 日・オンライン開催)

● 後藤 裕介：理工学分野におけるシステム工学によ

- 実践的教育と経営(システム)工学の可能性
- 堀川 三好：IT分野における実践的教育について

## 7) SCM業務プロセスにおける意思決定と生産管理との統合システム構築に関する研究

(主査：松本 卓夫，副査：中塚 昭宏)

### ① 概要

サプライチェーンマネジメント(SCM)は、現代の企業活動において重要な役割を担っており、その内容は近年益々複雑化している。調達、生産、物流、販売の各プロセスからシステムは構成されており、不確実なビジネス環境の下で、管理・運営・評価を行う実務者にとって体系的な理解と各プロセスでの適切な意思決定は困難なものとなっている。また、MES等の生産管理システムとの統合がスマート化に向けて求められている。本研究プロジェクトでは、SCMの各プロセスに関する基礎的事項、及び複数プロセス間での関係性について整理し、調達から販売までのSCM業務プロセスの体系化を行い、意思決定の方法をモデル化する。また、SCMの意思決定と生産管理を統合するシステムを提案し、スマート化に向けたサプライチェーン全体の最適化を検証する。

### ② 研究プロジェクト活動報告

研究プロジェクトの再立ち上げ初年度ということもあり、プロジェクトの主要メンバーによる検討会を実施下記のとおり実施した。

#### (ア) 第1回全体検討会

日時：2023年3月6日 13:30~15:00  
場所：神奈川大学

- 研究プロジェクトのコンセプトについて
- 協力企業の工場見学の日程調整
- 秘密保持契約について
- 協力企業からのデータ提供について
- 経営工学会秋季大会でのオーガナイズドセッションについて

#### (イ) 第2回工場見学会

日時：2023年3月27日(木) 14:00~17:20  
場所：トモエ乳業株式会社

- 顔合わせ
- トモエ乳業株式会社の概要説明
- 研究プロジェクトの概要説明
- 研究協力の要請
- 生産管理システムの概要説明
- 質疑応答
- 秘密保持契約について

#### (ウ) 秋季大会オーガナイズドセッション

日時：2023年10月29日(木) 12:50~13:50  
場所：オンライン開催

- テーマ【企業事例】食品製造業での出荷量予測と生産計画の立案及び意思決定
- 市乳事業(日配型食品)での出荷量予測値算出方法及び製造指示量算出方法の考え方とシステム化(松本卓夫)
- 多重比較法を移動平均法の変数選択に活用した需要予測手法の実用化に関する事例研究(中塚昭宏, 松本卓夫)

- 多段階在庫管理における内示情報活用方法の一考察(孫一軒, 赤坂信悟, 翁嘉華)

### (エ) 査読論文

中塚 昭宏, 松本 卓夫, “日配品の需要予測手法に関する事例研究—多重比較法を移動平均法の変数選択に活用した需要予測手法—”, フードシステム研究, Vol. 30, No. 3, pp. 103-117 (2023)

### (オ) ポスター発表

日時：2023年12月6日  
場所：Meet up in AGU 2023@AOYAMA

### (カ) 研究プロジェクト講演会の開催

日時：13:00-17:00  
場所：オンライン

日本経営工学会の研究プロジェクト「SCM業務プロセスにおける意思決定と生産管理との統合システム構築に関する研究」では、産業界及び海外の大学教員と連携して、2023年度の講演会を開催した。

講演会のテーマ：企業におけるサプライチェーン上の意思決定の方法・運用について

- 住友ゴム工業株式会社 清水 恭兵

【企業事例】タイヤ業界の需給オペレーションとSCM

- Soonchunhyang 大学 Chu Bong-Sung

ESG サプライチェーン管理と韓国企業の事例

- M2Technology 株式会社 松本 卓夫

【企業事例】市乳事業(日配型食品)での出荷量予測値算出及び製造指示量算出の決定方法とシステム化

- ディスカッション

内示方法の出し方や顧客(出荷先)とのコミュニケーションの取り方(手段・目的)などについて活発な議論が行われた。また、ESGについては、日韓を比較した現状認識のすり合わせが行われた。最後に、日配品特有の管理の難しさと課題・対応策についても議論が行われた。

**[V]内外の関連機関との連携及び交流(定款第4条第5号)**

活動報告

- (1) 国際会議及び協賛学会情報の提供  
国内外での開催会議41件の協賛承認を行い、「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載した。なお、41件中FMES協賛覚書準拠の案件が9件、国際会議が5件であった。
- (2) IFPR (ICPR) および IFPR-APR との連携  
ICPR 2023 の HP 掲載
- (3) APIEMS との連携  
APIEMS2024 の開催情報の HP 掲載
- (4) 経営工学関連学会協議会 (FMES) 及び日本技術者認定機構 (JABEE) への協力  
JIMA 会員の JABEE 審査員資格の調査を行い、名簿を更新した。
- (5) 横幹連合、日本工学教育協会との連携支援  
上記2団体に対し、JIMA の会員継続手続きを行い各団体の最新情報を専用ホームページで提供した。
- (6) CIIE との MOU 締結  
2023 年 9 月に CIIE と 3 年間の MOU を締結した。

**[VI] その他前条の目的を達成するために必要な事業**

(定款第4条第6号)

特になし

6. 1. 2 処務の概要

[I] 役員等に関する事項

2024年3月末現在

職名	常非別	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	報酬	現職	備考
会長	非常勤	開沼 泰隆	2023年6月3日	業務の総括	無	前 東京都立大学	
副会長	〃	葛山 康典	〃	大会 会員 法人化移行	〃	早稲田大学	
副会長	〃	船木 謙一	〃	産学官連携	〃	株式会社 日立製作所	
理事	〃	赤木 宏匡	〃	経営システム誌編集	〃	鹿島建設株式会社	
理事	〃	翁 嘉華	〃	国際・渉外	〃	神奈川大学	
理事	〃	金子 勝一	〃	財務	〃	山梨学院大学	
理事	〃	倉田 久	〃	論文誌編集	〃	横浜国立大学	
理事	〃	谷水 義隆	〃	表彰	〃	早稲田大学	
理事	〃	中川 慶一郎	〃	企画・行事	〃	株式会社 NTT データ タニューソン	
理事	〃	蓮池 隆	〃	庶務、広報	〃	早稲田大学	
理事	〃	堀川 三好	〃	研究、人材育成	〃	岩手県立大学	
理事	〃	宗澤 良臣	〃	支部	〃	広島工業大学	
監事	〃	滝 聖子	〃	監事	〃	千葉工業大学	
監事	〃	皆川 健多郎	〃	監事	〃	大阪工業大学	

[II] 職員に関する事項

2024年3月末現在

なし

2023 年度社員（会員）異動状況報告書  
(2024 年 3 月 31 日現在)

2024 年 3 月末社員数 30  
2023 年 3 月末社員数 30  
増減数 0

支部	正会員	正会員 (賛助代表)	学生会員	賛助会員	名誉会員	支部計
東北・北海道	28	0	8	0	0	36
関東	506	8	108	11	16	649
中部	68	0	17	1	4	90
北陸	24	1	3	1	1	30
関西	117	0	8	2	5	132
中国四国	54	1	7	1	2	65
九州	27	0	4	0	0	31
海外	1	0	1	0	0	2
合計	825	10	156	16社/17口	28	1,035
前年度末	855	9	162	15社/16口	28	1,069
増減	-30	1	-6	1社/1口	0	-34

### [Ⅲ] 会議等に関する事項

#### (1) 理事会

##### 1) 第37期第1回臨時理事会

開催日：2023年6月3日（土）17:30-18:10

場 所：青山学院大学青山キャンパス 17号館 17502教室

議決事項：

- ① 代表理事選出の件
- ② 副会長選出の件
- ③ 特別委員会の設置の件
- ④ 理事の会務担当の件
- ⑤ 今後の理事会開催日程の件

以上5件について全会一致で承認した。

協議事項：

協議事項はなく、報告事項は1件である。

##### 2) 第37期第1回理事会

開催日：2023年7月1日（土）14:00-16:20

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 14号館 801教室

議決事項：

- ⑥ 第1回臨時理事会議事録の件
- ⑦ 常設委員会委員の件
- ⑧ 研究部門長の件
- ⑨ 入会承認の件

以上4件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2024年春季大会開催の件
  - ② 2024年秋季大会開催の件
  - ③ FMES代表及び委員・シンポジウム実行委員の件
  - ④ 一般社団法人への移行の件
  - ⑤ 総会決議のない規則改訂の件
  - ⑥ 理事会情報共有クラウド・ストレージの件
  - ⑦ 2023年度春季大会のBPAの受賞者
- 以上7件について協議した。報告事項は8件である。

##### 3) 第37期第2回理事会

開催日：2023年10月7日（土）13:30-16:00

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 14号館 801教室

議決事項：

- ① 入会の件
- ② MoU継続の件
- ③ 大学院生国際会議等研究発表奨学金実施細則の件

以上3件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① EBSCOからの学術論文データベース収録の依頼の件
  - ② 情報共有クラウド・ストレージの件
  - ③ 学会Webサイト内の古いページの件
- 以上3件について協議した。報告事項は10件である。

##### 4) 第37期第3回臨時理事会

開催日：2023年12月23日（土）14:00-16:00

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 14号館 801教室

議決事項：

- ① 第2回理事会議事録の件
  - ② 入会承認の件
  - ③ 理事辞任に係る担当所掌変更の件
- 以上3件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2024年度予算案作成方針の件
  - ② 2023年秋季大会におけるBPAの件
  - ③ 経営システム商標更新の件
  - ④ 支部予算の件
  - ⑤ 外国送金取引契約の件
  - ⑥ 大会でのネットワーキング参加費の件
  - ⑦ EBSCOデータベース収録の件
  - ⑧ 来年度の国際文献社への事務委託の件
- 以上8件について協議した。報告事項は6件である。

##### 5) 第37期第3回理事会

開催日：2024年1月20日（土）14:00-16:40

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 14号館 801教室  
とWeb会議のハイブリッド

議決事項：

- ① 第3回臨時理事会議事録の件
- ② 入会の件
- ③ 春季大会の特別講演の経費について
- ④ 経営システム誌のIEレビューとの連携に関する覚書締結について
- ⑤ JIMA国際ワークショップ領収書発行のための電子印鑑の利用について

以上5件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2024年度事業計画について
  - ② 2024年度予算について
  - ③ 2025年度春大会の会場について
  - ④ 過去の予稿集の取扱いについて
- 以上4件について協議した。報告事項は6件である。

##### 6) 第37期第4回理事会

開催日：2024年3月9日（土）14:00-16:55

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 14号館 801教室  
とWeb会議のハイブリッド

議決事項：

- ① 第3回理事会議事録の件
  - ② 入会の件
  - ③ 2024年度事業計画について
  - ④ 2024年度予算について
  - ⑤ 国際文献社との学会業務委託契約について
  - ⑥ 経営システム商標登録について
  - ⑦ 経営システムとIEレビューの連携について
  - ⑧ 受賞候補者の推薦について
  - ⑨ KIIIEやCIIEへの参加学生支援奨学金について
- 以上9件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2025年秋大会の会場について
- ② 大会細則の改正について
- ③ 大会約款について
- ④ BPAの表彰の簡略化と規定変更について
- ⑤ 2025年4月の理事会日程について



以上5件について協議した。報告事項は4件である。

### 7) 第37期第5回理事会

開催日：2024年4月20日(土) 14:00-17:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 14号館 801教室  
とWeb会議のハイブリッド

議決事項：

- ① 入会の件
  - ② 2023年度事業報告について
  - ③ 2023年度決算について
  - ④ 日本経営工学会第37期理事会2024年度スケジュールの改訂
  - ⑤ 令和6年度オンライン研究セミナーについて
  - ⑥ 研究部門の活性化に向けた会員への情報提供について
  - ⑦ 「ザ・ゴール」研修の会員向けサービスについて
  - ⑧ 社員総会の招集の件
- 以上8件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2024年春季大会の特別講演会の一般公開と後援について
  - ② 2025年秋季大会会場と日程等について
  - ③ 研究発表大会約款について
  - ④ 奨学金事業の実施について
  - ⑤ JIMAとKHIE2024MOU締結案について
  - ⑥ 経営システムとIEレビューの連携について
  - ⑦ 法人クレジットカード作成について
  - ⑧ 特別賞 Best Presentation Award (BPA) の表彰について
- 以上8件について協議した。報告事項は4件である。

### (2) 理事会みなし決議

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条「理事会の決議の省略」に基づき、以下のみなし決議を行なった。

#### 1) 常設委員会委員選任の件

開催日：2023年9月4日(月)～9月8日(金)

提案に対し、2023年9月8日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

#### 2) 2023年春季大会決算の件

開催日：2023年9月4日(月)～9月8日(金)

提案に対し、2023年9月8日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

#### 3) 2024年秋季大会の件

開催日：2023年9月4日(月)～9月8日(金)

提案に対し、2023年9月8日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たの

で、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

#### 4) CHIEと継続してMoU締結の件

開催日：2023年9月4日(月)～9月8日(金)

提案に対し、2023年9月8日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

#### 5) JIMA海外活動支援奨学金募集の件

開催日：2023年9月4日(月)～9月8日(金)

提案に対し、2023年9月8日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

### (3) 総会

#### 2023年度定時総会

開催日：2023年6月3日(土) 16:15-17:00

場所：青山学院大学青山キャンパス

報告事項：

- 1.1 2022年度事業報告、学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告
- 1.2 監査報告
- 1.3 2023年度事業計画、収支予算報告
- 1.4 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

審議事項：

- 第一号議案 2022年度事業報告及び収支決算報告の件  
第二号議案 名誉会員推戴の件  
第三号議案 新役員選任の件

### (4) 各種委員会

#### 1) 庶務委員会

理事：降旗 徹馬(～2023年10月)

蓮池 隆(2023年11月～)

委員長：蓮池 隆(2023年11月～)

委員：(2023年10月まで)

中山 景央、平井 裕久、後藤 晃範

(2023年11月～)

佐藤 公俊、佐藤 哲也、三川 健太

#### ① 活動報告

- (ア) 第37期理事会の運営や資料作成、議事録作成などを行った。
- (イ) 業務委託内容を精査し、事務局に依存しない学会運営を検討するとともに、無駄の削減を行い、次年度の国際文献社との契約や予算案に反映させた。
- (ウ) 事業計画書及び事業報告書の取りまとめや確認を行った。

#### ② 委員会の開催

- ①で記載の活動に関して、随時メールベースで内容

の確認、協議が必要な場合は協議を行った。

## 2) 研究委員会

理事：堀川 三好

委員長：後藤 祐介

委員：佐藤 公俊，新目 真紀，山下 遥，孫 晶

### ① 活動報告

研究部門および研究プロジェクトの運営が円滑に行えるように情報提供等の支援を行った。また、今後行う予定であるオンライン研究会・セミナーについて企画立案や調整を行った。

### ② 委員会の開催

#### (ア) 第1回 研究委員会

開催日：2022年5月22日 12:30-13:10

場所：神奈川大学みなとみらいキャンパス

議題：サービス部門の人選について，オンライン研究セミナー企画，

拡大委員会として部門長および研究委員が参加

#### (イ) 第2回 研究委員会

開催日：2022年7月14日 18:00-18:50

場所：オンライン会議

議題：オンライン研究セミナーについて，研究部門・研究プロジェクト運営細則改訂について，サービス部門長の人選について

#### (ウ) 第3回 研究委員会

開催日：2022年11月22日 18:00-19:00

場所：オンライン会議

議題：研究プロジェクト申請について，オンライン研究セミナーの実施方法について，令和5年度の研究部門体制について

#### (エ) その他

随時メールベースで審議を実施。

## 3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

理事：倉田 久 (2021年6月6日～)

委員長：高野倉 雅人 (2023年6月3日～)

副委員長：加藤 麻樹，鈴木 定省

委員：秋葉 知昭，阿部 圭司，大江 秋津，後藤 允，猿渡 康文，高橋 真吾，武市 祥司，田中 正敏，生田目 崇，成島 康史，肥田 拓哉，北條 仁志，細田 高道，村田 康一，山下 遥

① 日本経営工学会論文誌 (Journal of Japan Industrial Management Association) 和文号 Vol.74, No.1～No.4, 英文号 2E, 4E を発行した。

② 第36期論文誌編集委員会の論文編集活動を継続する形で2023年度にも第37期論文誌編集委員会は運営会議を以下のように開催し，論文の査読状況を確認するとともに，編集方針等の各議題について協議した。

#### (ア) 第1回 委員会

開催日：2023年6月16日 (金) 18:00-18:34

場所：ZOOM オンライン会議

議題：

A) 論文査読の進捗確認

B) 2. JIMA 第37期役員顔合わせ会 (R5年5月21

日) 及び JIMA 総会 (R5年6月3日) からの報告

C) 第37期論文誌編集委員会の委員構成について

D) 今後の日程調整，その他

#### (イ) 第2回 委員会

開催日：2023年8月18日 (金) 18:00～18:58

場所：ZOOM オンライン会議

議題：

A) JIMA 会長からの論文誌の論文数の増加対策について

B) 査読状況の進捗報告

C) 特集号の刊行計画，表彰委員会との連携案

D) EBSCO からの学術論文データベース収録の依頼

E) 今後の日程調整，その他

#### (ウ) 第3回 委員会

開催日：2023年10月20日 (金) 18:00～19:10

場所：ZOOM オンライン会議

議題：

A) 査読状況の進捗報告

B) EBSCO データベースへの論文誌の登録

C) 10月7日理事会で提案された論文誌編集会への方針について

D) 特集号の刊行スケジュール計画

E) 表彰委員会との連携の続報

F) 今後の日程調整，その他

#### (エ) 第4回 委員会

開催日：2023年12月12日 (金) 18:00～18:35

場所：ZOOM オンライン会議

議題：

A) 査読状況の進捗報告

B) JST からの EM 電子投稿の際のファンディング情報の入力必須化の連絡について

C) 論文区分の見直しについてのご相談

D) 特集号への投稿数の増加について

E) 次回の日程調整，その他

#### (オ) 第5回 委員会

開催日：2023年2月16日 (金) 18:00～18:40

場所：ZOOM オンライン会議

議題：

A) 査読状況の進捗報告

B) 特集号への投稿状況

C) 査読期間の長期化の解消案

D) 今後の日程調整その他

#### (カ) 第6回 委員会

開催日：2024年2月19日 (金) 18:00～19:30 (予定)

場所：ZOOM オンライン会議

議題：

A) 査読業務の進捗確認

B) 特集号への投稿状況 (倉田)

C) 前回理事会 (R6年3月8日開催) の報告

D) 今後の日程調整，その他

投稿論文に対するエリアエディタの決定や査読結果等については，Editorial Manager 上でその都度対応した。

#### 4) 企画行事委員会

理事：中川 慶一郎

委員長：西村 泰一

委員：田中 岳

会員並びに非会員を対象に経営工学の専門分野並びに関連分野の諸問題について交流・教育のための各種の行事を実施した。

##### ① 会合の開催

今年度は企画業委員会独自の取り組みとしては産学協奏セミナー、研究委員会と共同でオンライン研究セミナーを実施した。

##### (ア) 第1回産学協奏セミナー（オンライン会議）

開催日：2023年10月7日(土)14:00～15:30

場所：ZOOM オンライン会議

テーマ：「SDGsを実現するイノベーションアーキテクチャモデル」

講演者：Tech Produce株式会社 代表取締役 重枝 真太郎氏

##### (イ) 第2回産学協奏セミナー（オンライン会議）

開催日：2024年2月3日（土）14:00～15:30

場所：ZOOM オンライン会議

テーマ：「ライフサイクル的思考とライフサイクルアセスメント」

講演者：国立研究開発法人産業技術総合研究所 総括研究主幹 門奈哲也様

##### (エ) 第1回オンライン研究セミナー

開催日：2023年7月14日(金)14:00～16:00

場所：ZOOM オンライン会議

テーマ：「デジタル時代の実践的IE人財育成」

講演者：大阪工業大学 皆川健多郎氏、山形カシオ株式会社 鈴木隆司氏

##### (オ) 第2回オンライン研究セミナー

開催日：2023年9月15日(金)14:00～15:15

場所：ZOOM オンライン会議

テーマ：「先進デジタル技術を活用した持続可能で強靱な社会インフラ・デザイン」

(1) 「3次元点群データを活用した未来のまちづくり ～ VIRTUAL SHIZUOKA構想～」

講演者：(1) 静岡県 交通基盤部 建設政策課 イノベーション推進班長 山崎友寛氏

##### (カ) 第3回オンライン研究セミナー

開催日：2023年1月20日（金）14:00～15:30

場所：ZOOM オンライン会議

テーマ：「日本経営工学会・学会賞および経営工学実践賞受賞者による招待講演」

(1) 「労働現場における人間工学評価ツールによる身体負担の評価」

(2) 「DX技術を応用した社員間エンゲージメントの向上施策」

講演者：(1) 早稲田大学 肥田拓哉氏

(2) 株式会社キューブシステム 田丸裕也氏、岡崎友彦氏

##### (キ) 第4回オンライン研究セミナー

開催日：2024年2月23日（金）14:00～15:00

場所：ZOOM オンライン会議

テーマ：「サプライチェーンにおけるブロックチェーン・メカニズムの適用性」

講演者：追手門学院大学 崔宇氏

#### 5) 人材育成委員会

理事：堀川三好

委員長：寛 宗徳

委員：玉木 欽也

##### ① 「技術士を目指そう」説明会 オンライン

経営工学3 団体連携事業による説明会を開催

開催日：2023年12月9日（土）13:30-16:00

場所：オンライン

参加者：12名

内容：

(ア) 技術士について

(イ) 技術士資格取得のメリット（体験談）

(ウ) 「日本経営工学会」の取り組み

(エ) 専門グループ別相談会

#### 6) 会員委員会

理事：蓮池 隆(11月まで)葛山 康典(11月移行)

委員長：山下 遥

委員：山下 遥、松野思迪

##### (ア) 定期の委員会審議/情報交換

開催日：随時

場所：メールによる審議/情報交換

活動内容：

A) 入退会申請の確認、事務局への問い合わせ

B) 名誉会員候補者の確認、理事会への審議提案

C) 会費未納会員に関する確認、督促の指示

##### ② 会員情報原本管理

A) セキュリティ上の管理

B) 会員情報の整合性管理

##### ③ 会費収入予算計上方法について検討

#### 7) 財務委員会

理事：金子 勝一

委員長：田畑 智章

委員：平井 裕久、鄭 年皓

##### ① 第1回委員会

開催日：2023年6月28日（水）

場所：メール審議

議題：

(ア) 委員会について

##### ② 第2回委員会

開催日：2023年12月6日（水）

場所：メール審議

議題：

(ア) 2024年度事業計画、予算案の検討

##### ③ 第3回委員会

開催日：2024年2月28日（水）

場所：メール審議

議題：

(ア) 2024年度予算案の検討

## 8) 表彰委員会

理事：谷水 義隆

委員長：野中 朋美

副委員長：渡邊 るりこ

委員：赤木 宏匡, 石垣 綾, 加藤 麻樹,  
葛山 康典, 川村 大伸, 高野倉 雅人,  
蓮池 隆, 宗澤 良臣, 八木 英一郎,

### ① 委員会開催報告

#### (ア) 第37期第1回委員会

開催日：2023年9月30日(土) 9:00-10:00

場所：オンライン (Zoom 会議)

議題：

- A) 表彰委員顔合わせ
- B) 秋大会 BPA 審査の確認
- C) 秋大会での委員会実施について
- D) 今後の各種賞の推薦・審査の流れについて
- E) その他の意見交換について

#### (イ) 第37期第2回委員会

開催日：2023年10月29日(日) 11:50-12:30, 16:20-16:50

場所：愛知工業大学9号館2階 3203 教室

議題：

- A) BPA 途中集計状況の確認
- B) 博士課程を対象とした新表彰制度について
- C) BPA 採点結果の確認と受賞者の選定

#### (ウ) 第37期第3回委員会

開催日：2024年3月1日(金) 18:00-19:00

場所：オンライン (Zoom 会議)

議題：

- A) 学会賞の候補者の選定
- B) 経営工学実践賞の候補者の選定
- C) 論文奨励賞の候補者の選定
- D) 優秀学生賞の候補者の確認

## 9) 大会委員会

理事：辛島 光彦, 葛山 康典

委員長：木内 正光

委員：楠川 恵津子, 加藤 麻樹, 小林 稔,  
嶋崎 真仁, 田畑 智章, 長沢 敬祐,  
西口 宏美, 八木 英一郎

### ① 研究発表大会

#### (ア) 春季大会

日時：2023年6月3日(土)～4(日)

場所：青山学院大学(ハイフレックス開催)

大会組織委員長：中邨良樹(青山学院大学)

#### (イ) 秋季大会

日時：2022年10月28日(土)～29日(日)

場所：愛知工業大学(一部ハイフレックス開催)

大会組織委員長：伊藤 雅(愛知工業大学)

### ② 委員会開催報告

#### (ア) 第1回

開催日：2023年6月3日(土)

場所：青山学院大学(広島工業大学&Zoom)

議題：

- A) 2023年度大会委員会予算案
- B) 春季大会のハイフレックス開催の課題と秋季

大会での対応状況

C) 大会実施要項の見直しについて

D) 2023年春季大会準備状況の報告

E) 2023年秋季大会開催校検討状況

F) その他

出席者：5名

#### (イ) その他

メール会議にて都度開催

A) 2023年春季大会決算報告

B) 2023年秋季大会プログラム編成について

C) 2023年秋季大会決算報告

D) 2024年春季大会開催校について

E) 2024年秋季大会開催会場について

F) 2025年春季大会開催会場について

G) 大会細則の改定について

H) 大会約款の制定について

I) 2023年度事業報告について

## 10) 国際・渉外委員会

理事：翁 嘉華

委員長：松野 思迪

副委員長：大森 峻一, 挾間 雅義

委員：孫 晶, 中山 景央, 細田 順子, 蔵本 薫, 黄  
茜, 枝川 義邦, 細川 徳之

### ① 委員会

#### (ア) 第37期第1回 委員会

開催日：2023年6月4日(日) 12:30-13:30

場所：青山学院大学

議題：

- A) 2023年度の委員体制
- B) 外部団体との連携強化への取組

出席者：6名

#### (イ) 第37期第2回 委員会

開催日：2023年11月5日(日)

場所：ZOOM

議題：

- A) 経営システム誌への寄稿報告
- B) 2023年度の委員体制の変更
- C) CIIE・KIIEの両団体との研究交流活動の企画・進捗状況
- D) JIMA 海外活動支援奨学金の申込状況・審査結果
- E) 他団体とのMoU 解消

出席者：8名

### ② 2023年度の主な活動結果

#### (ア) APIEMS との連携

A) APIEMS2023 の参加申込情報の案内

B) APIEMS2023 の開催情報の HP 掲載

(イ) IFPR (ICPR) および IFPR-APR との連携

(ウ) 日本 IE 協会との連携

双方の機関誌 (JIMA: 経営システム誌) 間の連携について、検討しており、具体的には毎回の目次の相互掲載と要請時の記事転載。

(エ) CIIE・KIIE などの海外団体との連携強化

A) CIIE Annual Conference への学生派遣

2023年12月9日に台中・台湾で開催されたCIIE Annual Conferenceに2名の学生（JIMA 学生会員）を派遣した。大学・研究室訪問なども含め、台湾の大学の教員・学生との交流に伴う活動を行った。

#### B) 国際ワークショップの開催

2024年3月6日～3月7日に生産物流部門と共同で International Workshop on Production and Logistics を神奈川大学みなとみらいキャンパスで開催した。CIIE と KIIE から多数の参加があった。

#### ③ 国際会議の情報提供

JIMA 会員の関心のあると思われる研究領域の国際会議の開催情報を「国際会議のご案内」のページに9件掲載した。このページは毎月の更新、見直しをしている。また、メルマガには隔号で直近3カ月に締め切りを迎える会議を掲載している。

#### ④ 他学協会との共催、協賛事業の支援

国内外での開催会議41件の協賛承認を行い、「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載した。なお、41件中FMES協賛覚41書準拠の案件が9件、国際会議が5件であった。

### 1.1) 経営システム誌編集委員会

理事：赤木 宏匡

委員長：川村 大伸

副委員長：石垣 綾，広谷 大助

委員：片岡 隆之，木内 正光

#### ① 発行状況

「経営システム」誌（Communications of JIMA），Vol. 33, No. 1・No. 2 を冊子体と電子媒体の両方にて発行した。

（発行年月 巻-号 発行部数）

（ア）2023年7月15日，33-1，1,800部

（イ）2024年1月15日，33-2，1,800部

#### ② 委員会開催報告

（ア）第37期第1回委員会

開催日：2023年7月25日（火）

場所：Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 経営システム Vol. 33, No. 2 の件

（イ）第37期第2回委員会

開催日：2023年7月31日（月）

場所：Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 経営システム Vol. 33, No. 2 の件

（ウ）第37期第3回委員会

開催日：2023年8月25日（金）

場所：Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 経営システム Vol. 33, No. 2 の件

（エ）第37期第4回委員会

開催日：2023年9月6日（水）

場所：Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 発行回数変更検討

B) 経営システム Vol. 33, No. 2 の件

（オ）第37期第5回委員会

開催日：2023年10月4日（水）

場所：Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 発行回数変更検討

B) 経営システム Vol. 33, No. 2 の件

C) IE協会との連携について

（カ）第37期第6回委員会

開催日：2024年1月12日（金）

場所：Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 経営システム Vol. 34, No. 1 の件

B) IE協会との連携について

（キ）第37期第7回委員会

開催日：2024年2月13日（金）

場所：Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 経営システム Vol. 34, No. 1 の件

B) 経営工学実践賞受賞候補文献の検討

### 1.2) 支部委員会

理事：宗澤 良臣

委員長：宗澤 良臣

委員：各支部支部長，事務局長，支部推薦者

#### ① 支部委員とのMailによる報告・意見交換

A) 2023年度事業報告と2024年度予算の作成依頼

B) 2024年度予算額について

C) 合同の学生論文発表会について

D) 2023年度事業報告の作成依頼

E) 各支部からの次期理事推薦検討について

### 1.3) 産官学連携委員会

理事：船木 謙一

委員長：船木 謙一

委員：藤野 直明，伊呂原 隆，唐澤 圭

学会の活動や成果を産業界に有益な形で還元するとともに、産業界から期待される学術活動の深耕、拡大を図る施策を検討した。

#### ① 委員会

（ア）第37期第1回委員会

開催日：2023年9月20日（水）18:15-19:30

場所：日立製作所本社会議室

議題：

本学会の現状課題の整理、強化または発掘すべき研究領域について意見交換。

A) 委員紹介

B) 委員長からの問題提起、論点整理

C) 委員からの意見提示、検討方針議論

（イ）第37期第2回委員会

開催日：2024年2月13日（火）

場所：MS Teamsによるオンライン開催

議題：

A) 前回委員会の議論から導いた論点整理

B) 産業界から期待される学術について

C) 経営工学のプレゼンス向上策について

## ② 産学連携活動

日本技術士会経営工学部会、日本 IE 協会との経営工学関連 3 団体連携スキームを活かし、以下の活動により、日本経営工学会及び経営工学研究を紹介。

### (ア) 「技術士を目指そう」説明会

開催日：2023 年 12 月 9 日（土）

場 所：日本生産性本部会議室

実施事項：

- ・船木副会長より、開会の挨拶
- ・福島大学 笥宗徳准教授より、学会における技術士資格取得への支援(人材育成)を講演

### (イ) 経営工学 3 団体連携講演会

開催日：2024 年 2 月 10 日（土）

場 所：機械振興会館研修室

実施事項：

- ・早稲田大学 大森峻一准教授より、「サプライチェーン全体最適化の現状と新たな課題」について講演

## 1 4) 法人化移行検討委員会

理 事：葛山 康典

委 員：開沼 泰隆，金子 勝一

社団法人から公益社団法人への移行申請時の内容を再確認し、将来にわたっての学会のあり方を検討した。

## 1 5) 広報委員会

理 事：蓮池 隆

委 員：佐藤 哲也，佐藤 公俊，三川 健太

(ア) メールマガジン（毎月 1 日，15 日発行）の掲載依頼内容及び事務局が作成した記事内容を確認するとともに，事務局への配信依頼を行った。

(イ) 各種委員会や研究部門・研究プロジェクト，あるいは公募情報などのホームページ掲載依頼を集約し，事務局へ更新を依頼するとともに，依頼者への更新結果の連絡なども行った。

## (5) 許可，認可，承認，証明等に関する事項

該当事項なし。

## (6) 契約に関する事項

一般財団法人学会誌刊行センターと「日本経営工学会論文誌」および「経営システム」編集発行業務について 2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の代行委託契約を締結した。

株式会社国際文献社と学会事務局の会員業務，会計業務，理事会運営業務，その他発生する業務について 2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の代行委託契約を締結した。

## (7) 寄付金に関する事項

該当事項なし。

## (8) 主務官庁からの連絡事項

- 2023 年 4 月 1 日「事業報告等の提出」提出のご案内 (A)
- 2023 年 5 月 1 日「事業報告等の提出」提出のご案内 (B)
- 2023 年 6 月 1 日「事業報告等の提出」提出のご案内 (C)

## (9) その他重要事項

該当事項なし。

## (10) 附属明細書

該当事項なし。

## 6. 1. 3 収支決算報告

### [I] 財務諸表

貸借対照表

正味財産増減計算書

予算対比正味財産増減計算書

財産目録

財務諸表に対する注記

附属明細書

# 貸借対照表

令和 6年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	14,815,849	16,868,521	△ 2,052,672
未収金	80,000	0	80,000
前払金	12,000	0	12,000
流動資産合計	14,907,849	16,868,521	△ 1,960,672
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
公益目的事業運営資産	22,000,000	22,000,000	0
創立80周年記念事業準備金	1,500,000	1,250,000	250,000
特定資産合計	23,500,000	23,250,000	250,000
固定資産合計	23,500,000	23,250,000	250,000
資産合計	38,407,849	40,118,521	△ 1,710,672
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	748,998	1,584,128	△ 835,130
前受金	213,000	76,000	137,000
前受会費	73,000	96,000	△ 23,000
預り金	1,495	947	548
流動負債合計	1,036,493	1,757,075	△ 720,582
負債合計	1,036,493	1,757,075	△ 720,582
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	37,371,356	38,361,446	△ 990,090
(うち特定資産への充当額)	23,500,000	23,250,000	250,000
正味財産合計	37,371,356	38,361,446	△ 990,090
負債及び正味財産合計	38,407,849	40,118,521	△ 1,710,672

# 正味財産増減計算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	439	439	0
特定資産受取利息	439	439	0
正会員受取入会金	54,000	60,000	△ 6,000
学生会員受取入会金	42,000	67,000	△ 25,000
正会員受取会費	7,971,000	8,411,000	△ 440,000
当年度	7,801,000	8,191,000	△ 390,000
過年度	170,000	220,000	△ 50,000
学生会員受取会費	357,000	468,000	△ 111,000
当年度	345,000	444,000	△ 99,000
過年度	12,000	24,000	△ 12,000
賛助会員受取会費	750,000	700,000	50,000
事業収益	6,335,414	6,650,151	△ 314,737
春季大会事業収益	1,807,000	1,764,000	43,000
秋季大会事業収益	1,623,000	2,268,000	△ 645,000
論文誌掲載収益	1,687,730	2,142,450	△ 454,720
別刷代収益	42,870	25,240	17,630
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	213,840	221,760	△ 7,920
バックナンバー収益	68,700	24,153	44,547
支部収益	42,274	44,548	△ 2,274
研究部門収益	690,000	0	690,000
雑収益	241,674	303,410	△ 61,736
受取利息	34	54	△ 20
雑収益	241,640	303,356	△ 61,716
経常収益計	15,751,527	16,660,000	△ 908,473
(2) 経常費用			
事業費	13,715,478	11,748,305	1,967,173
臨時雇賃金	435,107	327,560	107,547
会議費	1,804,905	571,279	1,233,626
旅費交通費	142,062	0	142,062
通信運搬費	560,240	593,238	△ 32,998
消耗品費	282,968	278,584	4,384
印刷製本費	5,102,614	5,228,263	△ 125,649
諸謝金	512,471	428,359	84,112
支払負担金	66,000	66,000	0
支払手数料	63,064	13,263	49,801
HP関係費	129,810	120,571	9,239
委託費	4,352,329	3,879,418	472,911
他学協会連携関係維持費	218,000	198,000	20,000
雑費	45,908	43,770	2,138
管理費	3,026,139	3,960,517	△ 934,378
旅費交通費	330	0	330
通信運搬費	151,628	157,904	△ 6,276
消耗品費	5,280	4,884	396
印刷製本費	29,431	30,277	△ 846
租税公課	2,480	1,070	1,410
支払手数料	70,648	96,599	△ 25,951
HP関係費	50,490	46,530	3,960
委託費	2,575,152	3,571,553	△ 996,401
雑費	140,700	51,700	89,000
経常費用計	16,741,617	15,708,822	1,032,795
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 990,090	951,178	△ 1,941,268
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 990,090	951,178	△ 1,941,268
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 990,090	951,178	△ 1,941,268
一般正味財産期首残高	38,361,446	37,410,268	951,178
一般正味財産期末残高	37,371,356	38,361,446	△ 990,090
II 正味財産期末残高	37,371,356	38,361,446	△ 990,090



# 予算対比正味財産増減計算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,000	439	561
特定資産受取利息	1,000	439	561
正会員受取入会金	48,000	54,000	△ 6,000
学生会員受取入会金	80,000	42,000	38,000
正会員受取会費	8,560,000	7,971,000	589,000
当年度	8,560,000	7,801,000	759,000
過年度	0	170,000	△ 170,000
学生会員受取会費	840,000	357,000	483,000
当年度	840,000	345,000	495,000
過年度	0	12,000	△ 12,000
賛助会員受取会費	800,000	750,000	50,000
事業収益	7,023,830	6,335,414	688,416
春季大会事業収益	1,900,000	1,807,000	93,000
秋季大会事業収益	1,900,000	1,623,000	277,000
論文誌掲載収益	2,600,000	1,687,730	912,270
別刷代収益	150,000	42,870	107,130
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	312,840	213,840	99,000
バックナンバー収益	990	68,700	△ 67,710
支部収益	0	42,274	△ 42,274
研究部門収益	0	690,000	△ 690,000
雑収益	150,100	241,674	△ 91,574
受取利息	100	34	66
雑収益	150,000	241,640	△ 91,640
経常収益計	17,502,930	15,751,527	1,751,403
(2) 経常費用			
事業費	15,210,734	13,715,478	1,495,256
臨時雇賃金	289,977	435,107	△ 145,130
会議費	1,780,050	1,804,905	△ 24,855
旅費交通費	105,274	142,062	△ 36,788
通信運搬費	609,260	560,240	49,020
消耗品費	288,074	282,968	5,106
印刷製本費	6,415,900	5,102,614	1,313,286
諸謝金	1,014,927	512,471	502,456
支払負担金	0	66,000	△ 66,000
支払手数料	14,216	63,064	△ 48,848
HP関係費	105,000	129,810	△ 24,810
委託費	4,239,200	4,352,329	△ 113,129
他学協会連携関係維持費	211,000	218,000	△ 7,000
雑費	137,856	45,908	91,948
管理費	3,824,000	3,026,139	797,861
旅費交通費	200,000	330	199,670
通信運搬費	184,000	151,628	32,372
消耗品費	33,000	5,280	27,720
印刷製本費	20,000	29,431	△ 9,431
租税公課	5,000	2,480	2,520
支払手数料	108,000	70,648	37,352
HP関係費	45,000	50,490	△ 5,490
委託費	3,199,000	2,575,152	623,848
雑費	30,000	140,700	△ 110,700
経常費用計	19,034,734	16,741,617	2,293,117
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,531,804	△ 990,090	△ 541,714
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,531,804	△ 990,090	△ 541,714
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,531,804	△ 990,090	△ 541,714
一般正味財産期首残高	38,361,446	38,361,446	0
一般正味財産期末残高	36,829,642	37,371,356	△ 541,714
II 正味財産期末残高	36,829,642	37,371,356	△ 541,714

## 財産目録

令和 6年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

	貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金預金	普通預金	運転資金として	12,115,332		
		三菱UFJ信託銀行上野支店		1,194,053		
		三井住友信託銀行芝営業部		130,121		
		みずほ銀行早稲田支店		1,652,611		
		みずほ銀行高田馬場支店/東北・北海道支部		74,637		
		みずほ銀行高田馬場支店/関東支部		482,161		
		みずほ銀行高田馬場支店/中部支部		83,840		
		みずほ銀行高田馬場支店/北陸支部		5,130		
		みずほ銀行高田馬場支店/関西支部		230,634		
		みずほ銀行高田馬場支店/中国四国支部		160,000		
		みずほ銀行高田馬場支店/九州支部		56,628		
		みずほ銀行高田馬場支店/大会組織委員会		1,174,893		
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費振込用		5,570,000		
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費保管用		1,271,784		
		みずほ銀行高田馬場支店/FMESシンポジウム		28,840		
		郵便振替	運転資金として	2,700,517		
		ゆうちょ銀行/会費振込専用口座		2,469,642		
		ゆうちょ銀行/大会参加費等振込専用口座		230,875		
		未収金	榊明報社	公益目的事業における広告料である	80,000	
		前払金	能登印刷株	公益目的事業における翌事業年度のWEBサイト費用である	12,000	
		流動資産合計				14,907,849
		(固定資産)	特定資産	公益目的事業運営資産	定期預金/三菱UFJ信託銀行上野支店	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している
定期預金/三井住友信託銀行芝営業部	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している				10,000,000	
定期預金/みずほ銀行早稲田支店	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している				10,000,000	
定期預金/みずほ銀行高田馬場支店/創立80周年記念事業準備金	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している				2,000,000	
創立80周年記念事業準備金	みずほ銀行高田馬場支店/創立80周年記念事業準備金				公益目的事業の80周年記念事業に備えるため	1,500,000
固定資産合計				23,500,000		
資産合計				38,407,849		
(流動負債)	未払金	榊国際文献社	中部支部	公益目的事業及び管理目的である会員・会計等の委託費用である	748,998	
			中部支部	公益目的事業における支部立替経費である	737,911	
			翌事業年度以降の大会参加費、論文誌掲載料	公益目的事業における大会事前参加費、論文誌掲載料である	11,087	
			翌事業年度以降の会費等	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する翌事業年度の会費及び入会金である	213,000	
			前受金	翌事業年度以降の会費等	公益目的事業におけるアルバイト費用に応じた源泉徴収税額である	73,000
前受会費				1,495		
預り金						
流動負債合計				1,036,493		
負債合計				1,036,493		
正味財産				37,371,356		

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

### 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	0	22,000,000
創立80周年記念事業準備金	1,250,000	250,000	0	1,500,000
合 計	23,250,000	250,000	0	23,500,000

### 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に対する額)
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	(22,000,000)	0
創立80周年記念事業準備金	1,500,000	0	(1,500,000)	0
合 計	23,500,000	0	(23,500,000)	0

## 附属明細書

### 1. 特定資産の明細

特定資産について、財務諸表の注記 2. 特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

## 6.2 監査報告

### 独立監査人の監査報告書

令和6年4月15日

公益社団法人日本経営工学会  
理事会 御中

鶴高公認会計士事務所  
公認会計士 鶴高利行

#### <財務諸表監査>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

#### 財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、当公認会計士事務所が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当公認会計士事務所は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当公認会計士事務所に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当公認会計士事務所の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当公認会計士事務所は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当公認会計士事務所は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <財産目録に対する意見>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の令和6年3月31日現在の令和4年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

#### 財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

#### 監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

#### 財産目録に対する監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

#### 利害関係

公益社団法人日本経営工学会と当公認会計士事務所の間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査報告書

2024年4月15日

公益社団法人 日本経営工学会  
会長 開沼 泰隆 殿

公益社団法人 日本経営工学会

監事 滝 聖子 ⑩

監事 皆川 健多郎 ⑩

私共は、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財産目録、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は指摘事項を除き認められません。

### (2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

### 3. 指摘事項

- (1) 事業報告(国際・渉外委員会)に記載されている、CIIE Annual Conference への学生2名派遣に係る奨学金の件

本件は、奨学金事業に該当し、本学会の定款に記載されています。いずれの事業にも形式的にも実質的にも該当しない可能性があります。目的外行為となった場合は無効(効果不帰属)であり、当該支出は当社団に損害を与える行為として法的責任の可能性があります。ついては、当該事業はいったん中止し、将来の定款の変更も含めた慎重かつ適切な対応が必要と思われます。

## 6. 3 2024年度事業計画、収支予算報告

### 2024年度事業計画

#### 1. 事業計画

##### [I] 研究発表会、学術講演会の開催（定款第4条第1号）：大会委員会

2024年度は、春季大会と秋季大会を開催する。

###### (1) 春季大会

日時：2024年5月25日(土)～26日(日)

場所：高崎経済大学

大会組織委員長：阿部圭司

5月24日(金)に工場視察を検討中

###### (2) 秋季大会

日時：2024年10月26日(土)～27日(日)

場所：くにびきメッセ

大会組織委員長：開沼泰隆

10月25日(金)に工場視察を検討中

##### [II] 会誌、その他の刊行（定款第4条第2号）

###### (1) 日本経営工学会論文誌「Journal of Japan Industrial Management Association」：日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.75, No.1～No.4, No.2E, No.4E を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2024年04月15日	75	1	1,300
2024年07月15日	75	2, 2E	1,300
2024年10月15日	75	3	1,300
2025年01月15日	75	4, 4E	1,300

###### (2) 経営システム「Communications of JIMA」：経営システム誌編集委員会

Vol.34, No.1, No.2 を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2024年07月15日	34	1	1,600
2025年01月15日	34	2	1,600

##### [III] 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第4条第3号）

###### (1) 表彰委員会

学会賞，論文賞，論文奨励賞，特別賞（経営工学実践賞，優秀学生賞，Best Presentation Award）を選考し，理事会に推薦する。

##### [IV] 調査，研究，見学及び視察（定款第4条第4号）

2023年度の事業を踏襲し，引き続き支部，研究部門で活動を行う。

###### (1) 支部活動計画：支部委員会

###### 1) 東北・北海道支部

－北海道，青森，岩手，秋田，山形，宮城，福島

###### ① 支部総会

日時：2025年3月 会場：未定

###### ② 研究会

日時：2024年11月 会場：山形

###### ③ 研究発表会

日時：2025年3月 会場：未定

###### ④ 運営委員会

eメールにてその都度開催

###### ⑤ その他

##### 2) 関東支部

－埼玉，栃木，群馬，千葉，茨城，神奈川，東京，山梨

###### ① 関東支部運営委員会

年間4回開催予定

###### ② 支部講演会

年間3回開催予定（夏，秋，冬の各1回）

###### ③ 事業所見学会

年間1回秋頃開催予定

###### ④ 学生論文発表会

日時：2025年3月

##### 3) 中部支部

－愛知，岐阜，三重，静岡

###### ① 支部総会（1回）

日時：2025年2月 会場：名古屋工業大学

###### ② 委員会（1回）

日時：2025年2月 会場：名古屋工業大学

###### ③ 工場見学会（講演会含む）（2回）

日時：2024年7月，11月

会場：未定（日本設備管理学会東海支部との協賛）

###### ④ 支部講演会（1回：支部研究発表会と同時開催）

日時：2025年2月 会場：名古屋工業大学

###### ⑤ 支部研究発表会（1回：支部講演会と同時開催）

日時：2025年2月 会場：名古屋工業大学

##### 4) 北陸支部

－石川，富山，福井，新潟，長野

###### ① 委員会（2回）

日時：2024年5月，2025年2月 会場：未定

###### ② セミナー（1回）

日時：2024年5月 会場：未定

###### ③ 学生論文発表会（1回）

日時：2025年2月 会場：未定

##### 5) 関西支部

－大阪，京都，兵庫，和歌山，奈良，滋賀

###### ① 支部総会

(ア) 日時：2024年6月

(イ) 議題：2023年度事業報告

2023年度収支決算報告

2024年度事業計画案

2024年度収支予算案

###### ② 特別講演会

日時：2024年6月 会場：未定

###### ③ 委員会（5回）

日時：2024年6月 会場：未定

日時：2024年8月 会場：未定

日時：2024年10月 会場：未定

- 日時：2024年12月 会場：未定  
日時：2025年2月 会場：未定
- ④ セミナー（2回）  
日時：2024年10月 会場：未定  
日時：2025年2月 会場：未定
- ⑤ 見学会（1回）  
日時：2024年9月 見学先：未定
- ⑥ 学生論文発表会（1回）  
日時：2025年2月  
会場：大阪公立大学（予定）

## 6) 中国四国支部

一鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、徳島

- ① 支部総会  
(ア) 日時：2024年5月  
(イ) 議題：2023年度事業報告、決算報告  
2024年度事業計画案、収支予算案  
その他
- ② 支部役員会（3回）  
日時：2024年5月 会場：未定  
日時：2024年10月 会場：未定  
日時：2025年2月 会場：未定
- ③ 講演会（2回）  
日時：2024年5月 会場：未定  
日時：2025年2月 会場：未定
- ④ 工場見学会（1回）  
日時：2024年9月 会場：未定
- ⑤ 学生論文発表会（1回）  
日時：2025年2月 会場：未定
- ⑥ 勉強会（1回）  
日時：2024年11月  
会場：未定

## 7) 九州支部

一福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄

- ① 支部総会  
日時：2024年6月 会場：福岡工業大学  
(ア) 総会  
2023年度支部事業報告  
2023年度支部決算報告  
2024年度支部事業計画案  
2024年度支部予算案  
その他  
(イ) 意見交換会
- ② 合同研究会（年間2回）  
(ア) 第1回  
日時：2024年6月 会場：福岡工業大学  
(イ) 第2回  
日時：2024年12月 会場：未定
- ③ 経営工学合同定例セミナー  
日時：2024年9月 会場：熊本学園大学
- ④ 学生論文発表会  
日時：2025年2月 会場：福岡工業大学  
(ア) 発表会  
予定発表15件程度

(イ) 意見交換会

- ⑤ 見学会  
日時：2024年8月  
会場：未定（生産現場など）
- ⑥ 学生会講演会  
日時：2024年度中 会場：未定 講師：未定
- ⑦ 幹事会（年間3回）  
2024年6月、9月、12月  
（企画・運営委員会、論文集委員会、表彰委員会兼任）企画、論文集発行、表彰等の計画・実施
- ⑧ 研究委員会（年間4回）  
e メールを活用した電子会議を軸に実施し、開催日は委員長に一任  
研究会、見学会、セミナーの計画・実施
- ⑨ 学生助成委員会（年間2回）  
e メールを活用した電子会議を軸に実施し、開催日は委員長に一任  
論文発表会の会場・スケジュール、講演会の会場・講師・日程の調整・決定

## (2) 研究部門活動計画：研究委員会

### 1) 生産・物流部門

生産・物流における研究活動を継続して行う。特に、産学連携交流会を開催するとともに、春季大会におけるオーガナイズドセッションを企画する。

### 2) 事業・市場部門

事業・市場分野における研究活動を継続して行う。「未来戦略デザイン推進会議」及び「科研SDGs/CE会議」と連携して活動を行い、デジタルBook出版のプロジェクトを検討する。また、春季全国大会または秋季全国大会の発表、経営システム誌にSDGs/CE特集号を企画する。

### 3) サービス部門

サービス分野における研究活動を、引き続きゲーム理論やメカニズムデザインの観点に重点を置いて進めていく。また、全国大会でオーガナイズドセッションを企画する。

### 4) 経営情報部門

経営情報分野における研究活動を継続して行う。特に、データ解析コンペティションの中間発表会、成果報告会を開催するとともに、全国大会でオーガナイズドセッションを企画する。

### 5) 経営数理部門

経営数理分野における研究活動を継続して行う。特に、経営システム誌や関連雑誌における特集の企画・検討を行うとともに、JIMA大会におけるオーガナイズドセッションを企画する。

### 6) 人間・組織部門

人間組織分野における会員交流促進を継続する。



また、経営システム誌において人材育成に関する特集およびオンライン研究会を企画する。

### (3) 研究プロジェクト：研究委員会

2023年度に申請のあった下記2件の研究プロジェクトの運営支援を行う。

#### 1) SCM 業務プロセスにおける意思決定と生産管理との統合システム構築に関する研究

サプライチェーンと生産管理における意思決定の理論と実務に関して、モデルの検討・構築・検証を行う。具体的には、協力企業の実務を調査して、実用的なモデルを構築する。モデル構築後、実務者向けの教育カリキュラムを検討し、実務者向けの講習会を実施して、フィードバックによる改善後、テキストを作成する。研究成果を経営工学会で発表する。

#### 2) スループット会計研究

プラザ合意以降、日本の製造業は海外生産を進めてきたが、近年、サプライチェーンの見直しと共に国内回帰の動きも見られるようになった。国内回帰が着実に根づくためには、コスト削減による局所的な最適化ではなく、サプライチェーンの全体最適化が必要となる。本研究プロジェクトでは、「つながり」と「ばらつき」がともに存在する生産現場の評価にスループット会計が果たす効果について、実証的な立場から調査・研究・普及をも目指す。研究成果を経営工学会で発表し、経営システム誌への寄稿を目指す。

### [V] 内外の関連機関との提携及び交流 (定款第4条第5号)

- (1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ、メールマガジンによる会員向け案内の継続
- (2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応とそれらのホームページ、メールマガジンでの会員への案内・周知
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、日本工学会との連携とホームページへの情報掲載
- (4) APIEMS への協力・支援、年次大会のホームページへの情報掲載
- (5) IFPR (ICPR) 及び IFPR-APR への協力・支援、ホームページへの情報掲載促進
- (6) CIIE, KIIE との MOU に基づく連携活動
- (7) 経営システムへの国際会議報告等の寄稿者推薦
- (8) JABEE 及び FMES との連携活動
- (9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- (10) その他、日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等
- (11) 公益事業モデルの構築による外部組織との新たな公益事業の展開

### [VI] その他前条の目的を達成するために必要な事業 (定款第4条第6号)

特になし

## 2. 会議に関する事項

### [I] 定時総会

2024年5月25日・26日の春季大会期間中に開催予定

### [II] 理事会

2024年4月、5月、7月、9月、10月、2025年1月、3月（年7回）開催予定

### [III] 各種委員会

#### (1) 庶務委員会

- 1) 規程類の検討、総会・理事会の運営、ホームページの作成・更新・運用、メールマガジン発行
- 2) 事務の諸手続きの国際文献社への依頼
- 3) 事業計画書及び事業報告書の確認

#### (2) 研究委員会

全国大会において各研究部門が企画するオーガナイズドセッションおよび定期的開催されるオンライン研究セミナーの企画・運用をすることで会員間の交流を促進し、研究活動の活性化を行う。

- 1) 全国大会におけるオーガナイズドセッションの企画・運営
- 2) オンライン研究セミナーの企画・運営  
昨年度に引き続き、他の委員会と連携しながらオンライン研究会・セミナー（年4回予定）の企画・運営支援を行う。また、各研究部門が独自で開催する研究会の活動支援を行う。
- 3) 会員への情報提供  
各研究部門・研究プロジェクトの活動状況を会員へメールマガやホームページを通じて広報する。

#### (3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

- 1) 日本経営工学会論文誌 和文誌4号、英文誌2号の発行
- 2) 特集号「若手研究者の経営工学研究」の計画・準備
- 3) 年6回程度の委員会を開催し、論文誌発行を進めるとともに、規定類の見直し等について検討
- 4) 理事会と連携し、安定的・継続的で魅力的な論文誌の維持・運営のための方策などを検討

#### (4) 企画・行事委員会

- 1) オンライン、対面、ハイブリッドいずれかの形式のセミナーイベントの開催（年5～6回程度）。ただし、セミナーイベントの開催、運営業務については適宜研究部門と連携して実施する。

#### (5) 人材育成委員会

- 1) 技術士（経営工学）取得への支援活動：経営工学関係3団体（日本経営工学会、日本技術士会、日本IE協会）で連携しながら、技術士（経営工学）をめざしている学生、実務を担当しながら技術士（経営工学）を目指している企業人に対して、国家資格としての技術士の制度や受験について支援活動をする。これにより、更に経営工学に興味を持ってもらい、将来的に日本経営工学会への入

会につなげていく。

- 2) 実践教育プログラムの活動：日本経営工学会の人材育成に関する方針に関連した諸活動。会員向け教材の提供と関連するライセンス管理。

#### (6) 会員委員会

- 1) 会員の入退会の管理，報告
- 2) 会員名簿の情報セキュリティー運用対策の実施
- 3) 会員増強のためのデータ分析
- 4) 会員増強策の検討，提案

#### (7) 財務委員会

- 1) 毎月の伝票検査，支払い及び半期毎の予算執行の管理
- 2) 決算案の作成と事業報告書の提出期限の周知，監査手続き
- 3) 予算案のとりまとめと事業計画書の提出期限の周知
- 4) 計数的統制と効率的運用
- 5) 経費承認システムの運用方法の検討

#### (8) 大会委員会

- 1) 春季・秋季大会での委員会開催
- 2) 春季・秋季大会プログラム検討の委員会開催
- 3) 事務局（ヘルプデスク）との大会関連の調整
- 4) その他大会に関する会合（Zoom，eメール等で開催）

#### (9) 表彰委員会

学会賞，論文賞，論文奨励賞，特別賞（経営工学実践賞，優秀学生賞，Best Presentation Award）の各候補の推薦方法を検討し，各賞受賞候補者（案）を決定し，理事会に諮る。

#### (10) 国際・渉外委員会

- 1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ，メールマガジンによる会員向け案内の継続
- 2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応と国内外での協賛・共催学会のホームページでの案内・周知
- 3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合），日本工学会との連携とホームページへの情報掲載
- 4) APIEMS への協力・支援，年次大会のホームページへの情報掲載
- 5) IFPR (ICPR) 及び IFPR-APR への協力・支援，ホームページへの情報掲載促進
- 6) CIIE, KIIE との MOU に基づく連携活動
- 7) 「経営システム」誌への国際会議報告等の寄稿者推薦及び委員会関連記事の執筆
- 8) JABEE 及び FMES との連携活動
- 9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- 10) 必要に応じて，大会委員会ならびに研究委員会と連携した FMES シンポジウム及び国際ワークショップの開催

- 11) その他，日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等

#### (11) 経営システム誌編集委員会

- 1) 年間 2 冊の発行を継続しつつ電子化を推進
- 2) 学会活動を広く発信する観点から，経営システムの在り方，各コンテンツの内容，発信媒体を再検討
- 3) 上記を議論するため，適宜，編集委員会を開催

#### (12) 支部委員会

- 1) 委員会の開催
- 2) 各支部の事業計画と支部に割り当てる資金・企画行事の検討
- 3) 支部活動や支部間連携活動の活性化支援
- 4) 支部の運営方法や大会開催支援に関する検討

#### (13) 産官学連携推進委員会

- 産・官・学連携を一層強化するため，以下を推進する。  
（企画・行事委員会、人材育成委員会と連携）
- 1) 学会の活動や成果を産業界に有益な形で還元するとともに，産業界から期待される学術活動の深耕、拡大を図る施策の検討
  - 2) 産・官・学各界における経営工学のプレゼンスを上げるための経営工学関連団体（日本 IE 協会、日本技術士会経営工学部会など）及び企業、行政とのコミュニケーション活性化策の検討

#### (14) 法人化移行委員会

- 1) 2024 年度は公益事業勘定に加え，一般事業勘定の設定の検討を行う。

#### (15) 広報委員会

- 1) 学会活性化を推進するための広報活動の見直し，改善，新たな広報媒体の検討を行う。
- 2) 広報媒体としての学会ホームページが有効に機能しているかの検証と改善，必要なコンテンツを検討する。

# 収支予算書(案)

2024年 4月1日から2025年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,000	1,000	0
正会員受取入会金	32,000	48,000	△ 16,000
学生会員受取入会金	18,000	80,000	△ 62,000
正会員受取会費	8,200,000	8,560,000	△ 360,000
学生会員受取会費	488,000	840,000	△ 352,000
賛助会員受取会費	850,000	800,000	50,000
事業収益	8,637,790	7,023,830	1,613,960
産学連携研究交流会事業収益	0	0	0
春季大会事業収益	2,390,000	1,900,000	490,000
秋季大会事業収益	3,020,000	1,900,000	1,120,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0
別刷代収益	150,000	150,000	0
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	316,800	312,840	3,960
バックナンバー収益	990	990	0
支部収益	0	0	0
研究部門収益	0	0	0
記念事業収益	0	0	0
その他事業収益	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
雑収益	150,100	150,100	0
受取利息	100	100	0
雑収益	150,000	150,000	0
経常収益計	18,376,890	17,502,930	873,960
(2) 経常費用			
事業費	17,680,314	15,210,734	2,469,580
臨時雇賃金	126,764	289,977	△ 163,213
会議費	2,715,977	1,780,050	935,927
旅費交通費	150,000	105,274	44,726
通信運搬費	602,900	609,260	△ 6,360
消耗品費	820,862	288,074	532,788
印刷製本費	6,387,363	6,415,900	△ 28,537
諸謝金	943,140	1,014,927	△ 71,787
支払手数料	51,000	14,216	36,784
HP関係費	112,000	105,000	7,000
委託費	5,160,974	4,239,200	921,774
他学協会連携関係維持費	201,000	211,000	△ 10,000
雑費	408,334	137,856	270,478
管理費	3,234,500	3,824,000	△ 589,500
臨時雇賃金	0	0	0
会議費	0	0	0
旅費交通費	200,000	200,000	0
通信運搬費	161,000	184,000	△ 23,000
消耗品費	21,000	33,000	△ 12,000
印刷製本費	30,000	20,000	10,000
租税公課	5,000	5,000	0
支払手数料	72,000	108,000	△ 36,000
HP関係費	48,000	45,000	3,000
委託費	2,667,500	3,199,000	△ 531,500
雑費	30,000	30,000	0
経常費用計	20,914,814	19,034,734	1,880,080
当期経常増減額	△ 2,537,924	△ 1,531,804	△ 1,006,120
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,537,924	△ 1,531,804	△ 1,006,120
一般正味財産期首残高	36,829,642	38,361,446	△ 1,531,804
一般正味財産期末残高	34,291,718	36,829,642	△ 2,537,924
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	34,291,718	36,829,642	△ 2,537,924

# 収支予算書内訳表(案)

2024年 4月1日から2025年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業		法人会計	合 計
	経営工学に関する 学術振興事業	小計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	1,000	1,000	0	1,000
正会員受取入金	16,000	16,000	16,000	32,000
学生会員受取入金	9,000	9,000	9,000	18,000
正会員受取会費	4,100,000	4,100,000	4,100,000	8,200,000
学生会員受取会費	244,000	244,000	244,000	488,000
賛助会員受取会費	425,000	425,000	425,000	850,000
事業収益	8,637,790	8,637,790	0	8,637,790
産学連携研究交流会事業収益	0	0	0	0
春季大会事業収益	2,390,000	2,390,000	0	2,390,000
秋季大会事業収益	3,020,000	3,020,000	0	3,020,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0	2,600,000
別刷代収益	150,000	150,000	0	150,000
広告料収益	160,000	160,000	0	160,000
定期購読収益	316,800	316,800	0	316,800
バックナンバー収益	990	990	0	990
支部収益	0	0	0	0
研究部門収益	0	0	0	0
記念事業収益	0	0	0	0
その他事業収益	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0
雑収益	0	0	150,100	150,100
受取利息	0	0	100	100
雑収益	0	0	150,000	150,000
経常収益計	13,432,790	13,432,790	4,944,100	18,376,890
(2) 経常費用				
事業費	17,680,314	17,680,314	0	17,680,314
臨時雇賃金	126,764	126,764	0	126,764
会議費	2,715,977	2,715,977	0	2,715,977
旅費交通費	150,000	150,000	0	150,000
通信運搬費	602,900	602,900	0	602,900
消耗品費	820,862	820,862	0	820,862
印刷製本費	6,387,363	6,387,363	0	6,387,363
諸謝金	943,140	943,140	0	943,140
支払手数料	51,000	51,000	0	51,000
HP関係費	112,000	112,000	0	112,000
委託費	5,160,974	5,160,974	0	5,160,974
他学協会連携関係維持費	201,000	201,000	0	201,000
雑費	408,334	408,334	0	408,334
管理費	0	0	3,234,500	3,234,500
臨時雇賃金	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	200,000	200,000
通信運搬費	0	0	161,000	161,000
消耗品費	0	0	21,000	21,000
印刷製本費	0	0	30,000	30,000
租税公課	0	0	5,000	5,000
支払手数料	0	0	72,000	72,000
HP関係費	0	0	48,000	48,000
委託費	0	0	2,667,500	2,667,500
雑費	0	0	30,000	30,000
経常費用計	17,680,314	17,680,314	3,234,500	20,914,814
当期経常増減額	△ 4,247,524	△ 4,247,524	1,709,600	△ 2,537,924
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,247,524	△ 4,247,524	1,709,600	△ 2,537,924
一般正味財産期首残高				36,829,642
一般正味財産期末残高				34,291,718
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額				0
当期指定正味財産増減額				0
指定正味財産期首残高				0
指定正味財産期末残高				0
III 正味財産期末残高				34,291,718

#### 6.4. 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

◎会員権利停止・会員資格喪失予告者一覧（1年間：2023年度 正会員：38名 学生会員：33名）

下記の会員権利停止・会員資格喪失予告者については定款第10条および会員規則第4条により、

(1) 2024年9月末日時点で会費未納の場合は、会員の権利を2025年1月末日まで停止する。

(2) 2025年1月末日時点で会費未納の場合は、会員資格喪失とする。

##### 正会員 38名

野間 圭介	片山 正己	大畑 聡	伊藤 孝行	鳥越 悠希	田中 一徳
須田 正毅	高野 真一	奥村 文徳	山田 達也	坂 直樹	後藤 裕介
神田 幸治	秋月 信孝	牧野 公一	岩崎 昭	岸田 敦司	張 路
鬼頭 朋見	竹生 泰之	三沢 英貴	傳田 大輔	片山 博	劉 功義
木下 裕	松本 政秀	松岡 克行	山本 和人	小田 恭市	池田 孝二
福本 伸一	江島 夏実	渡辺 研司	福田 誉行	野村 聡	津田 博
大江 啓太郎	ZHENG ZHOUHUA				

##### 学生会員 33名

中野 凌	大賀 雄太郎	石田 恵悟	大澤 圭介	新井 康太	関原 規晃
野田 光明	銭 卉凝	柘植 健哉	爲島 海太	柴田 有里奈	櫻井 陸
北林 幸樹	大澤 嘉規	小野寺 斗弥	小林 幸祐	宇佐見 優太	堀越 大成
高島 晃大	馬 一寧	木村 圭汰	稲木 祥平	古屋 英士	井上 翔太
石川 悠樹	何 舜洋	松林 祐加	後長 拓真	太田 陸	Wang Ting
岩田 康典	尾崎 美優	MAO CHENDING			

## 7. 審議事項

### 第一号議案 2023年度事業報告及び収支決算報告の件

報告事項 6. 1 2023年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告 (pp. 1～pp. 25) をご参照ください。



